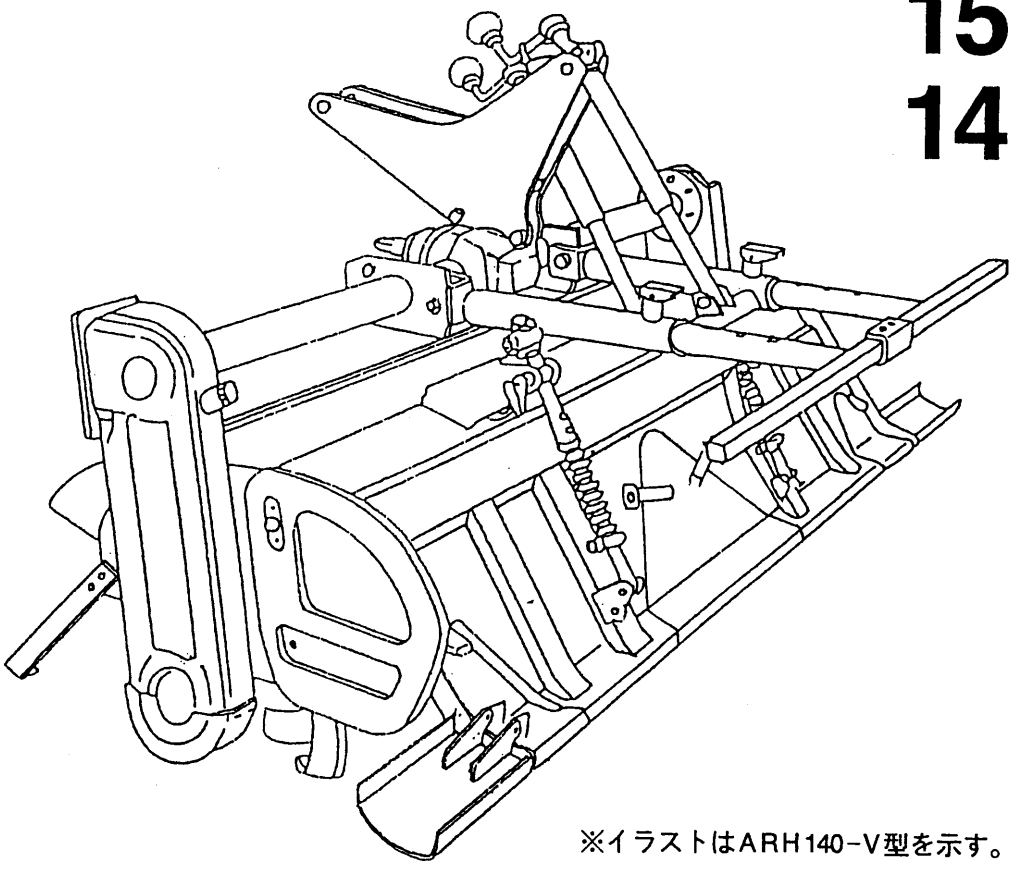
ヰセキロータリ

取扱説明書

ARH 160
150
140



※イラストはARH140-V型を示す。

ご使用前に必ずお読みください。

井関農機株式会社

AT 01 00650

整理番号 1A

ロータリ重要安全ポイント

1．耕うん爪の点検や交換をするときは、

必ずエンジンを止め、油圧ロックをします。

2．ロータリを着脱するときは、

平坦な場所で低速で行います。

トラクタの後輪とロータリの間に立たない。

3．運転･作業をするときは、

回転部分には、手や体を近づけない。

必ず周囲の安全を確かめます。

この機械をお使いになるときは復唱してください。

安全に作業していただくために、ぜひ守っていただきたい重要安全ポイントは上記のとおりですが、これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守っていただきたい事項を⚠を付して説明のつどとり上げております。さらに、トラクタ本体の取扱説明書をよくお読みいただき安全・確実な作業を心がけていただくようお願いいたします。

はじめに

●この度は、ヰセキロータリをお買いあげいただき、まことにありがとうございました。

●この説明書は、ロータリを使用する際に是非、守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項、ロータリを適切な状態で使っていただくための正しい運転･調整･整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●ロータリを初めて運転される時はもちろん、日頃の運転・取扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み、十分理解され安全･確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は、いつでも取り出して読めるように保管してください。

●ロータリを貸与または譲渡される場合は、相手の方に取扱説明書の内容を十分理解していただき、この取扱説明書をロータリに添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買いあげいただいた、販売店･農協にご注文ください。

●なお、品質･性能向上あるいは安全上･使用部品の変更を行うことがります。その際には、本書の内容および写真･イラストなどの一部が、本ロータリと一致しない場合がありますので、ご了承ください。

●もし、おわかりにならない点がございましたら、ご遠慮なくお買いあげいただいた販売店・農協にご相談ください。

●取扱説明書の中の⚠重要表示は、下記の様に安全上、取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき、必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　　要　　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるものを示しております。
重要	製品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。よく読んで製品の性能を最大限発揮してご使用ください。

●この取扱説明書では、同じシリーズの型式･区分のロータリについて併記してあります。お買いあげいただいた、ロータリの型式・区分名を、機体に貼付してあるラベルで確認され、該当する部分をお読みください。

区分記号	装　備　内　容	区分記号	装　備　内　容
D	クイック４Ｐ	M	ワンタッチ耕うん爪
B	ゲージホイル(後２輪)付	T	強力耕うん爪
V	三角切欠き付リヤカバー	Z	ロータリカバー(前)開閉式
Ｖ２	内盛耕うん爪		

整理番号 4A

目　次

安全のポイント …… 1

安全な作業をするために …… 1

安全表示ラベルについて …… 2

安全表示ラベル貼付位置 …… 2

保証とサービスについて …… 3

各部の名称とはたらき …… 4

取り付けかた・取り外しかた …… 5

トラクタへの装着（S型：標準仕様ロータリ・D型：クイック４P仕様）…… 5

取り外しかた …… 13

作業前の点検 …… 15

点検箇所 …… 15

作業に適した調整と使いかた …… 16

適応作業速度 …… 16

カバー回動の使いかた …… 16

コーナーカバー …… 18

センターカバー（V型仕様）…… 18

リヤカバーロックの使いかた …… 19

スタンドの使いかた（尾輪付仕様は除く）…… 21

耕深調整のしかた（B型、尾輪付仕様）…… 22

尾輪位置の調整（B型、尾輪付仕様）…… 22

プレッシャスプリング調整のしかた …… 23

フロントカバーの使いかた …… 24

クリーンバー（草巻付き防止バー）について …… 25

整理番号 5

スライドヒッチの前後調節のしかた ……26
アトケシカバーの使いかた ……26
畦立器の取り付けと作業のしかた ……27
逆転ＰＴＯの使いかた ……28
ジョイントカバーの使いかた（Ｓ型：直装仕様）……29
手入れについて ……29
リヤカバーレベラの使いかた（注文部品）……30
マッドロップ（土付着防止）について（注文部品）……30

耕うん爪について ……31

取り付けかた ……31
爪配列 ……32

各部の手入れと点検整備 ……35

定期点検箇所一覧表 ……35
各部の油量点検と交換 ……35
グリースの補給 ……36
注油箇所 ……37
シールの組換え ……38
爪の交換時期 ……38

不調時の処置 ……39

サービス資料 ……40

主要諸元 ……40
注文部品 ……41

AT 01 00650

整理番号 6A

安全のポイント

本章では、機械を効率よく安全にお使いいただくために、必ず守っていただきたい事項を説明しております。十分に熟読され、安全な作業を行なってください。

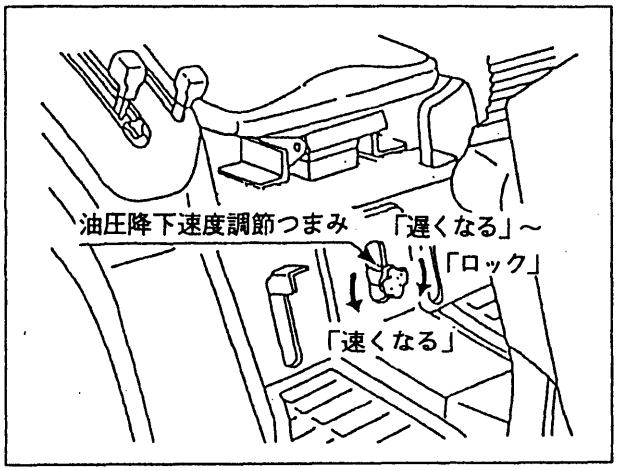
ロータリを装着して一般道路を走行すると、道路運送車輌法に違反します。

トラクタに装着しての走行はしないでください。

安全な作業をするために

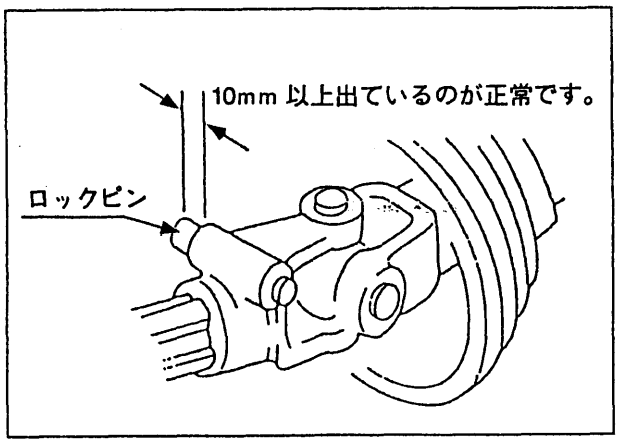
■耕うん爪の点検や交換時

（1）エンジンを止める。
（2）油圧降下速度調節つまみを「ロック」の位置にする。
（3）パーキングブレーキをセットする。



■ロータリの着脱・調整時

（1）トラクタを移動してロータリを装着する場合、平坦な所で、低速で行いトラクタの後輪とロータリの間に立たない。
（2）必要以外はエンジンを止める。
（3）3点リンク（ロワリンク・リフトロッド・トップリンク）の止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認する。



■運転・作業時

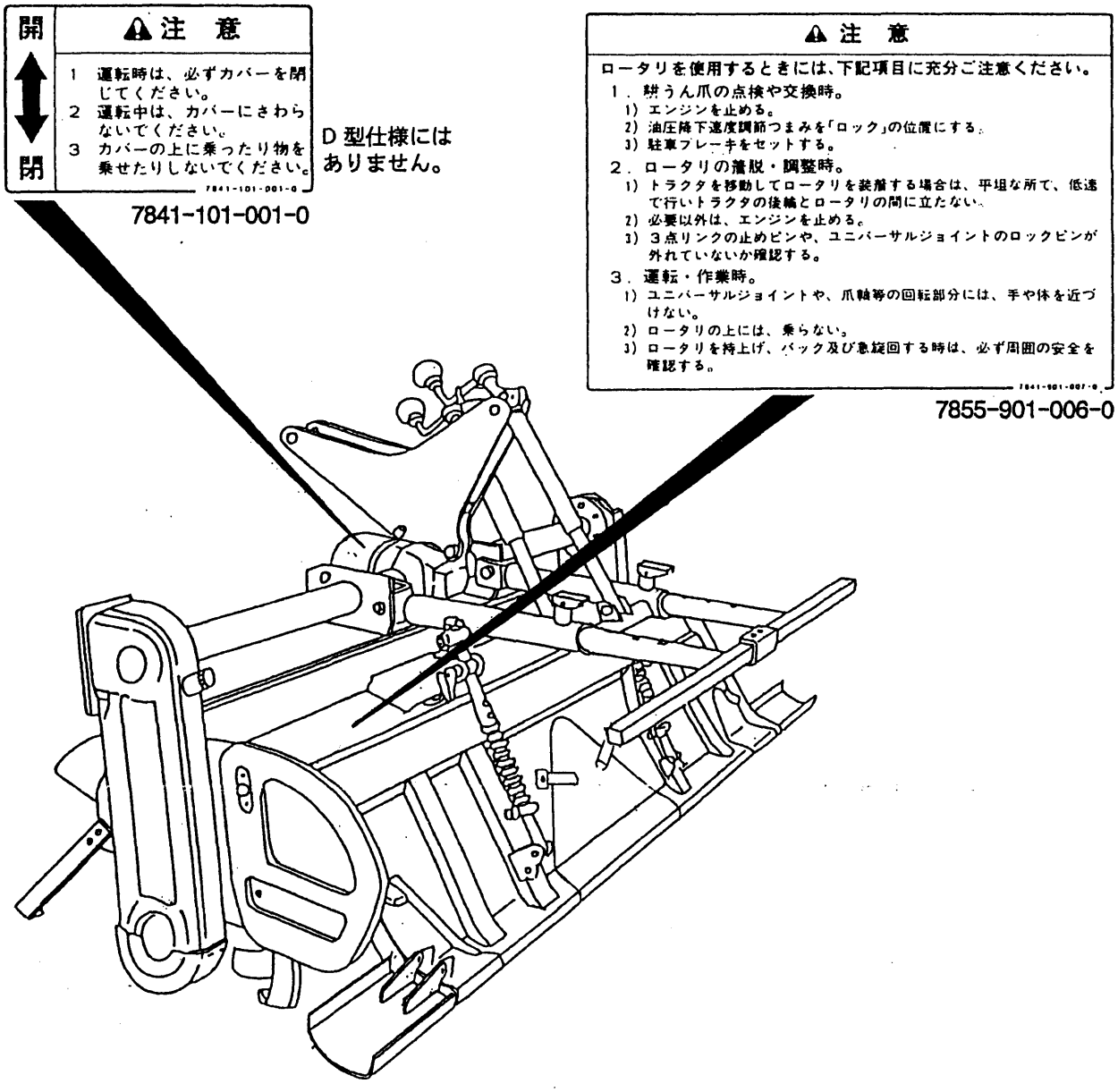
（1）ユニバーサルジョイントや爪軸等の回転部分には、手や体を近づけない。
（2）ロータリの上には乗らない。
（3）ロータリを持上げ、バック及び急旋回する時は、必ず周囲の安全を確認する。

整理番号 7

安全表示ラベルについて

- 本機には、安全に作業をしていただくために安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで、これらの注意に従ってください。
- 安全表示ラベルが破損したり、なくなったり読めなくなった場合には、新しいラベルに貼り替えてください。
- 泥等が付いた場合は、きれいに拭きとり、いつでも読めるようにしてください。
- 安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合、同時に安全表示ラベルもお買いあげいただいた販売店・農協へ注文してください。

安全表示ラベル貼付位置



整理番号 8

保証とサービスについて

■製品の保証

この製品には、キセキ保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

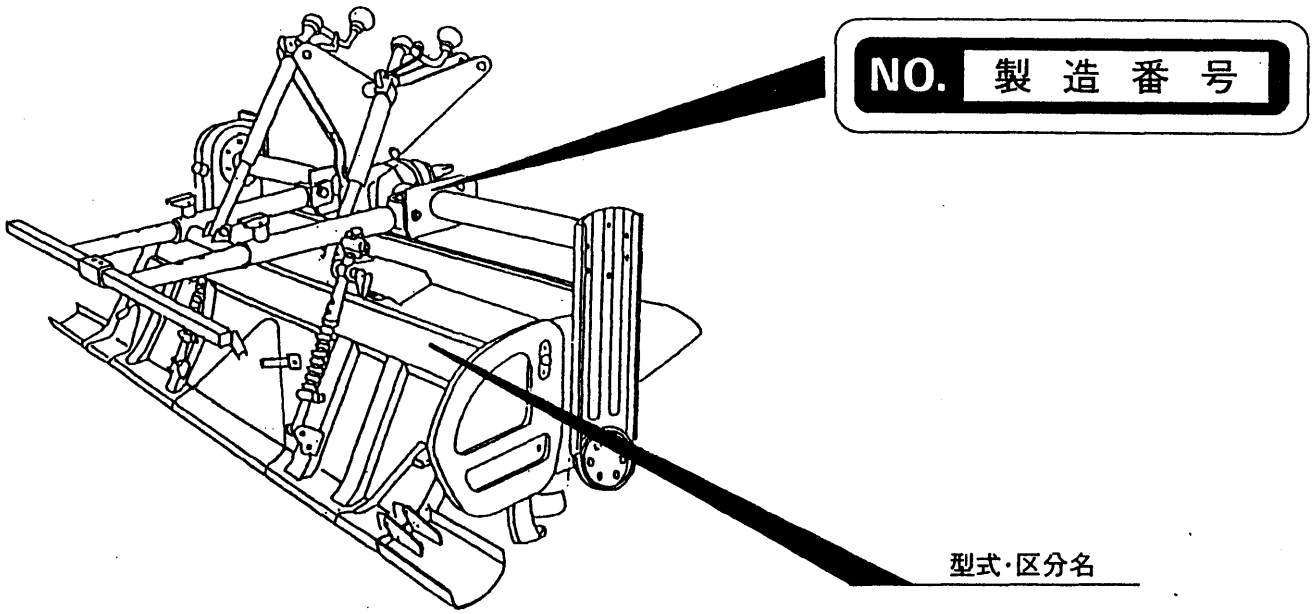
■サービスネット

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店・農協へお気軽にご相談ください。

その際、

（1）型式･区分と製造番号

（2）故障内容（できるだけ詳しく）を併せてご連絡ください。



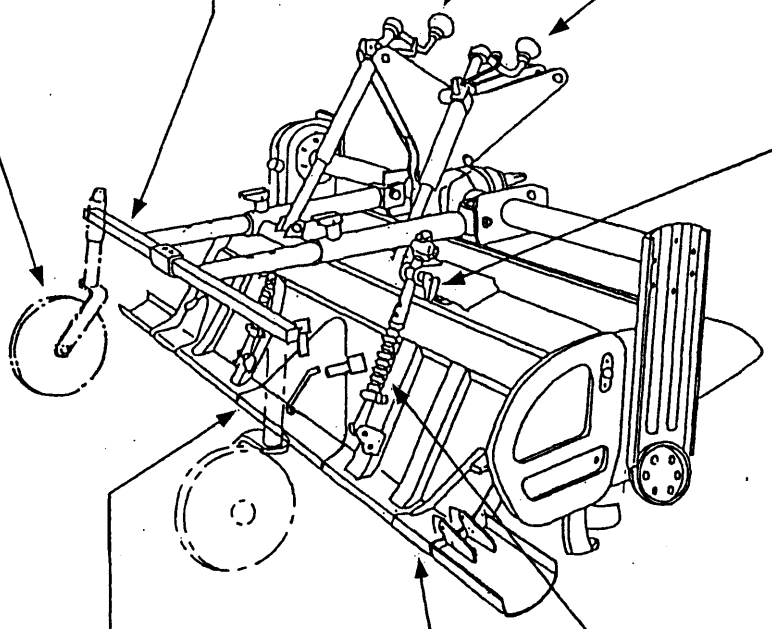
■補修用部品供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後９年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もございます。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

整理番号 9

各部の名称とはたらき



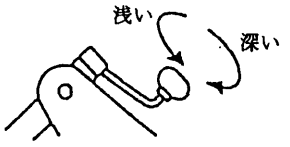
スライドヒッチ

駐立器・代かきレベラ等の作業機を取り付けます。尾輪の前後調整も行います。

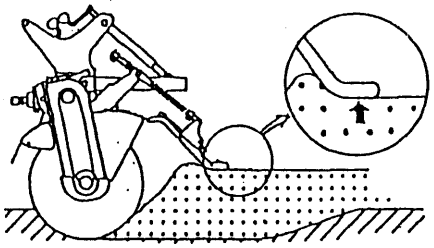
尾　輪

※B型仕様のみ、標準装備です。

耕深ハンドル



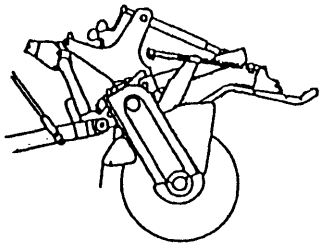
カバー回動ハンドル



リヤカバーの平らな部分が接地するように調整してください。仕上がりがきれいになります。

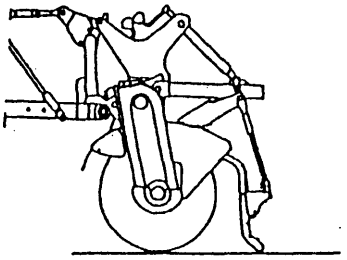
リヤカバーロック

上げロック



リヤカバーを宙づりにすることができます。爪交換、泥落し、洗浄等に使用してください。
耕うん作業や、路上走行は絶対にしないでください。

下げロック

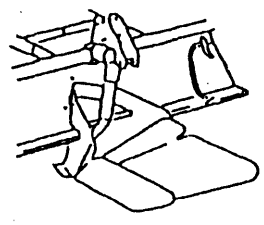


リヤカバーを下げて固定することができます。ロータリ着脱時のスタンド・代かき時の土寄せ作業に使用してください。
軽作業以外には使用しないでください。

プレッシャスプリング

リヤカバーの加圧力を調節します。

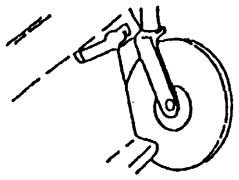
センターカバー



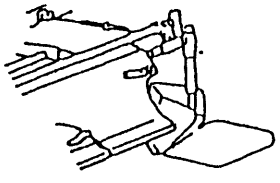
駐立作業をする時にはこのカバーを外して駐立て器を装着します。

※V型仕様のみ

コーナーカバー



外すことにより尾輪を前に寄せることができます。



片培土器を装着する時にはこのカバーを外します。

整理番号 10

取り付けかた・取り外しかた

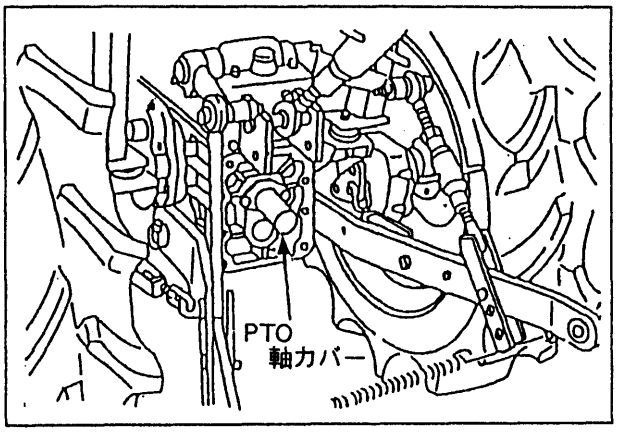
⚠ 注意

- トラクタを移動してロータリを着脱する場合は、平坦な所で、低速で行いトラクタの後輪とロータリの間に立たない。
- 必要以外はエンジンを止める。
- 3点リンク（ロワリンク・リフトロッド・トップリンク）の止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが外れていないか確認する。

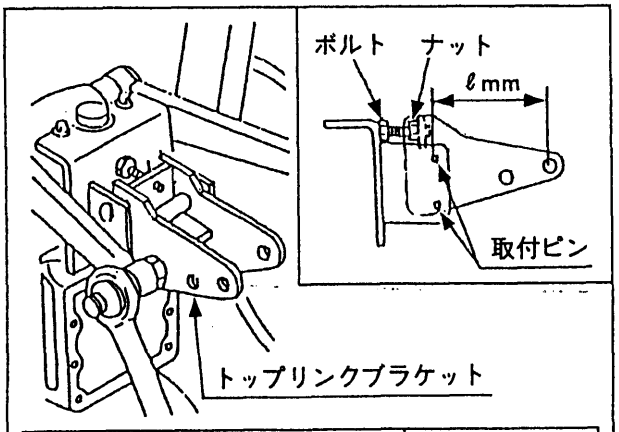
トラクタへの装着（S型：標準仕様ロータリ・D型：クイック4P仕様）

■装着前の準備（S型：標準仕様 D型：クイック4P仕様）

（1）PTO軸カバーを外します。
トラクタのPTO軸カバーを外してください。
PTOを使用しないときは、PTO軸にグリースを塗布した後、必ず元の位置に取り付けてください。



（2）トップリンクブラケットを取り付けます。
図のようにトラクタ後部ヒッチに取付ピンにて取り付けてください。固定はブラケットが動かなくなるまでボルトを調節し、ナットにて固定してください。



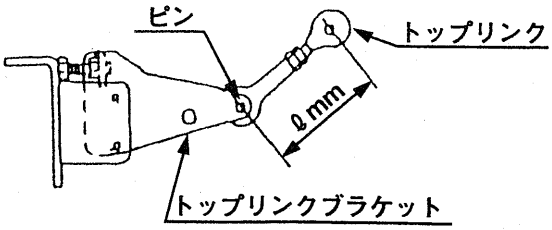
トラクタ型式	直装型	D 型
ℓ (mm)	160	130

重要

- 初期的に、トップリンクブラケットにガタが発生することがあります。その際は、増締めを行い、確実に固定してください。

整理番号 11

（3）トップリンクを取り付けます。
図のようにトップリンクブラケットをピンにて取り付けてください。



トラクタ型式	直装型	D 型
ℓ (mm)	280	210

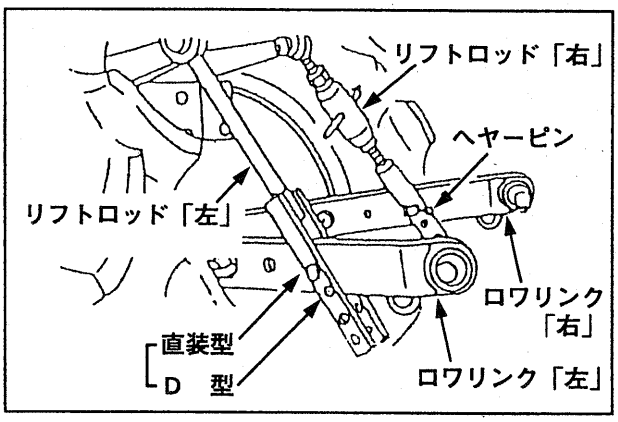
重要

●トップリンクの長さは、標準セット時の長さを表示しております。調整を必要とする場合は、振動・騒音が少なくなるように長さを調整してください。

（4）ロワリンクとリフトロッドの取り付け位置を調整してください。
ロワリンクは最後方の穴、リフトロッドは「直装型＝1番上の穴、D型＝上から2番目」の穴と連結されていることを確認し、もし、異なっている場合は調整してください。
ピンはタイヤ側より挿入してください。

⚠ 注意

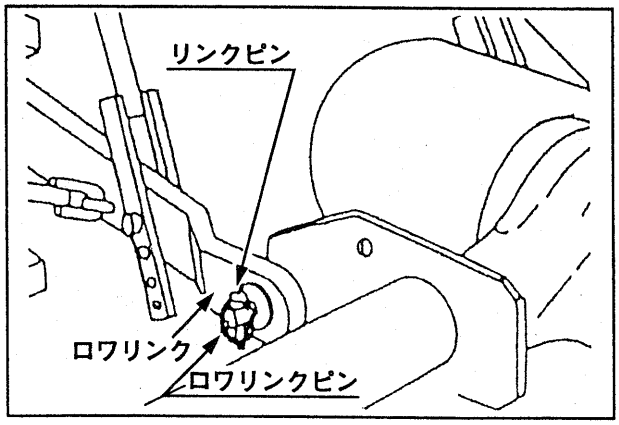
●ロワリンクと、リフトロッドの取り付け位置を間違うと、ユニバーサルジョイントが抜けてしまい破損し傷害事故を引起こすおそれがありますので注意してください。



■取り付けかた（S型：直装仕様）……（D型：クイック4P仕様）は9ページを参照してください。

次の手順で取り付けてください。

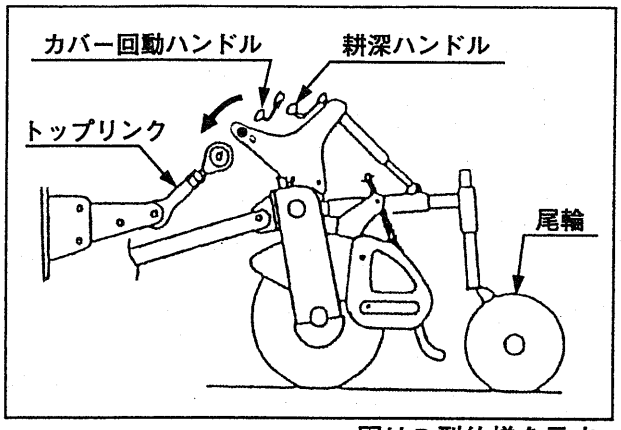
（1）ロワリンクを取り付けます。
ロータリの中心を合わせながらトラクタをバックさせます。次にロワリンクとロワリンクピンを連結し、リンクピンでとめます。
ロワリンクは先ず左側を取り付け、次にリフトロッド「右」の長さを調整しロワリンクと、ロワリンクピンの高さを合わせながら取り付けると楽にできます。



AT0401140

整理番号 12A

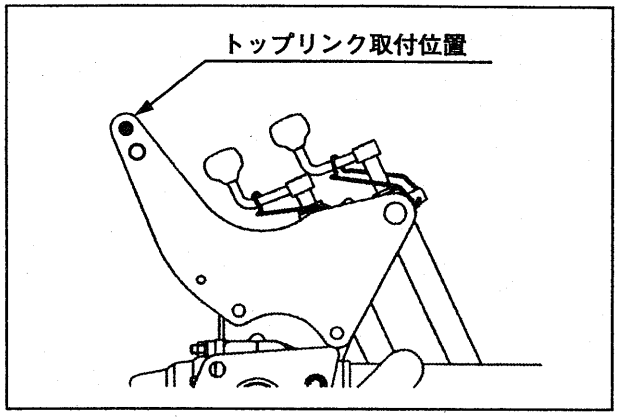
（2）トップリンクを取り付けます。
トップリンクは右図の位置に取り付けてください。
B　　型：耕深ハンドルを回して穴位置を合わせてください。
B型以外：カバー回動ハンドルを回して穴位置を合わせてください。



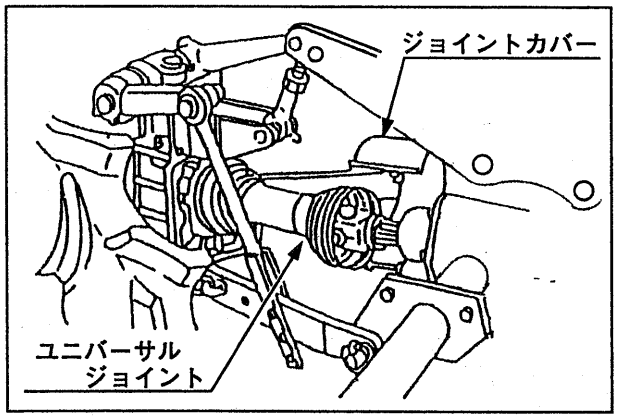
図はB型仕様を示す。

⚠ 注意

●尾輪は必ず左右取り付けてください。
●調整後ロータリが転倒しないことを確認してください。
●トップリンク取付位置を確認してください。まちがうと損傷事故の原因となります。



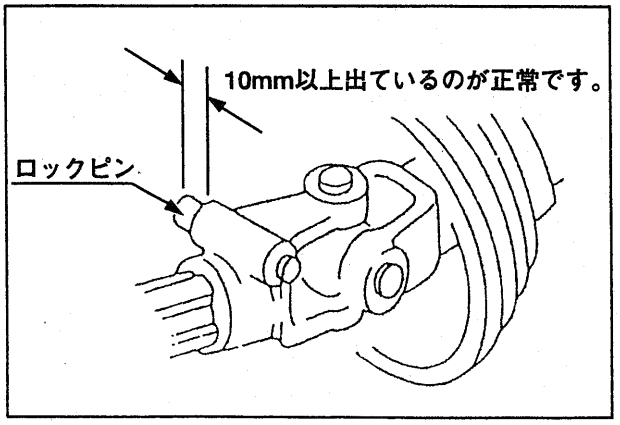
（3）ユニバーサルジョイントを取り付けます。
ユニバーサルジョイントのロックピンを指で押し、トラクタＰＴＯ軸の横溝を越すまで差込み、次に反対側をロータリの軸に差込んで、ロックピンで固定します。そして、ＰＴＯ軸側を手前に引き、ロックピンを確実に溝に入れてください。この状態で、前後に押し引きし、ジョイントが動かないことを確認してください。
直装型：ジョイントカバーを必ず閉じてください。
D　型：ジョイントカバーはありません。



図は直装型を示す。

⚠ 注意

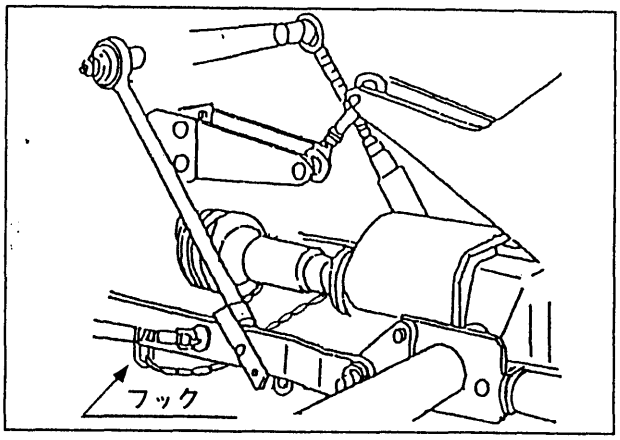
●ユニバーサルジョイントのロックピンが、正確に溝にはいったかどうかの確認は、ロックピンの頭が10mm以上出ているかどうかで確認してください。



整理番号　13A

AT0401140

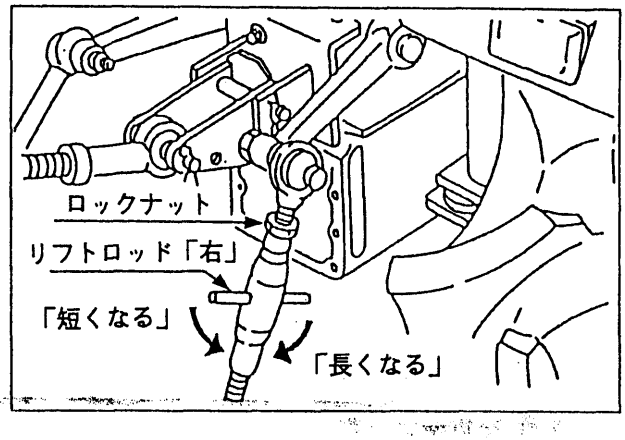
（4）安全カバーの回り止めをします。
安全カバーの２本の鎖は、ロワリンク「左」の前側のフックに取り付けてください。



重要

- 鎖は所定の位置に正しく取り付けてください。

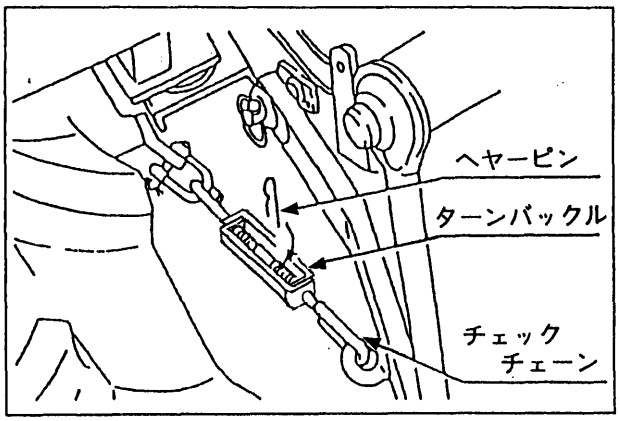
（5）ロータリの左右の傾き調整をします。
ロータリを持ち上げた状態で、ロータリの爪軸がトラクタの車軸と平行になるようにしてください。
調整はリフトロッド「右」で行います。調整後、リフトロッド「右」が自由に回転しないようにロックナットで固定してください。



重要

- ロータリがトラクタと平行になっていないと左右の耕深が異なり、砕土・均平性能が悪くなります。

（6）トラクタとロータリの中心を合せます。
ユニバーサルジョイントが、上から見て一直線になるようにチェックチェーンを左右均等に張り、ヘヤーピンでロックしてロータリの横ぶれを防止してください。



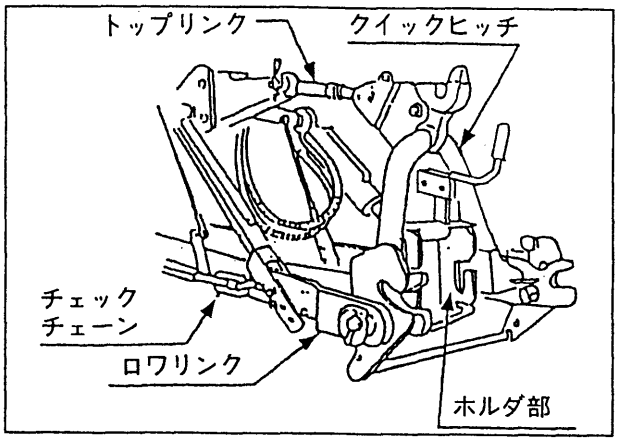
重要

- ユニバーサルジョイントの直線がずれていると、振動や騒音の原因となります。
- ロータリを回転しながら上げ下げし、ユニバーサルジョイント部からの異音・振動がないか確認します。この時、耕うん爪が接地しないよう注意してください。もし異音・振動が発生した場合は、ロワリンクとリフトロッドの取り付け位置を確認後、トップリンクの長さを音の出ない長さに調整してください。

整理番号 14

■取り付けかた(D型：クイック4P仕様)……(S型：直装仕様)は6ページを参照してください。

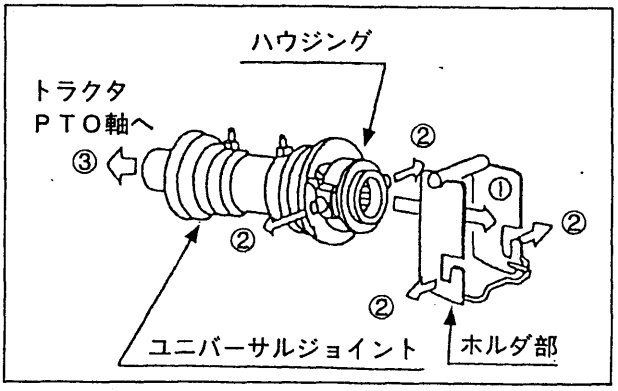
(1) クイックヒッチを取り付けます。
チェックチェーンをゆるめて、クイックヒッチをロワリンクとトップリンクの3点で止めてください。



(2) ユニバーサルジョイントを取り付けます。
①ユニバーサルジョイントをクイックヒッチのホルダ部に通します。(矢印①)

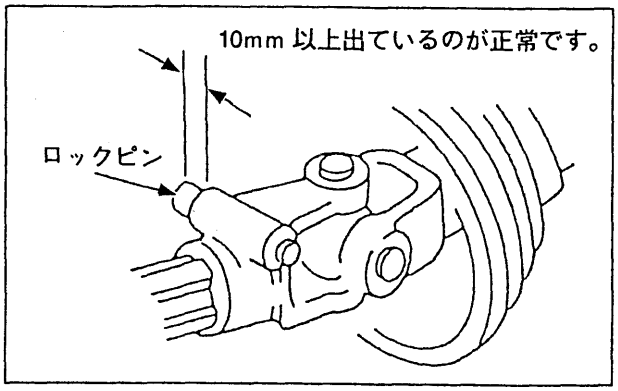
②ハウジングの左右のピンをホルダ部の溝に合わせセットしてください。(矢印②)

③ユニバーサルジョイントのロックピンを指で押し、トラクタPTO軸に差し込みます。ロックピンを確実に溝に入れてください。(矢印③)

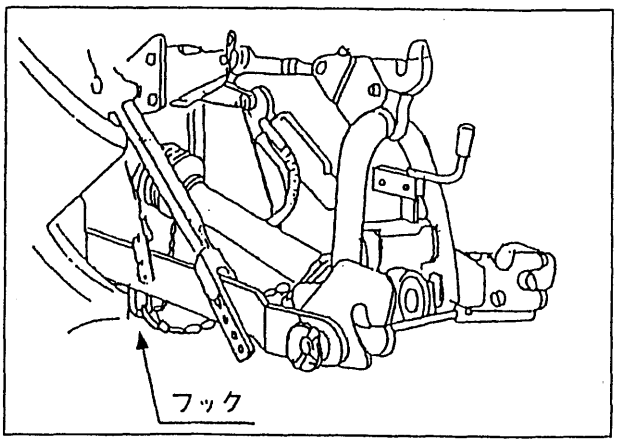


⚠ 注意

- ユニバーサルジョイントのロックピンが、正確に溝にはいったかどうかの確認は、ロックピンの頭が10㎜以上出ているかどうかで確認してください。
- ロータリを装着していない状態では、ぜったいにPTOを回さないでください。



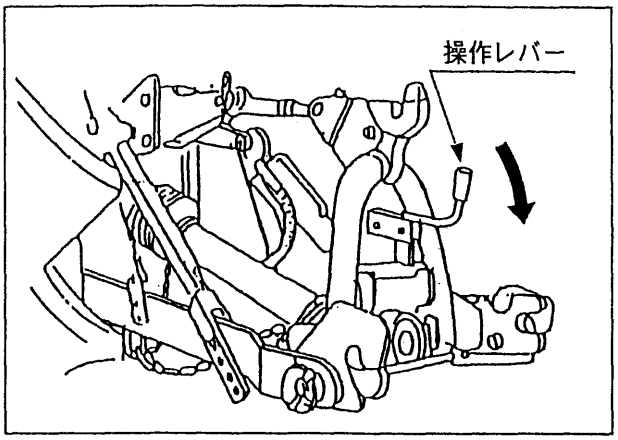
(3) 安全カバーの回り止めをします。
安全カバーの2本の鎖は、ロワリンク「左」の前側のフックに取り付けてください。



重要

- 鎖は所定の位置に正しく取り付けてくださ

（4）操作レバーを矢印（➡）の方向に押し下げてください。

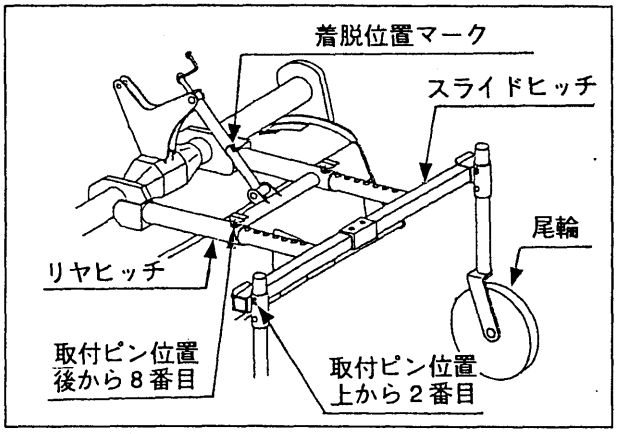


（5）ロータを着脱姿勢にします。

- 尾輪付(B型)仕様の場合

①尾輪の前後方向・上下方向位置は図のように取付ピンにて正しくセットしてください。

②ロータリの耕深ハンドルを操作してリヤヒッチ角度を着脱位置マークに合わせてください。



⚠ 注意

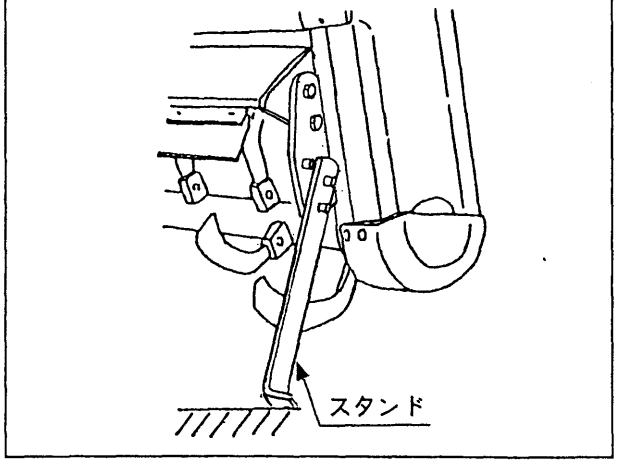
- 尾輪は必ず左右取り付けてください。
- 調整後ロータリが転倒しないことを確認してください。

- 尾輪なし（B型以外）仕様の場合

①スタンドを、図で示すロータリ着脱時の状態に調整してください。
調整（操作）要領は（21ページ）を参照してください。

②リヤカバーを「下げロック」の状態に調整してください。
調整（操作）要領は（20ページ）を参照してください。

ロータリ着脱状態



⚠ 注意

- スタンドは確実にロックされていることを確認してください。
- スタンドはロータリの着脱時以外は必ず、収納(作業)状態(21ページ参照)にしておいてください。

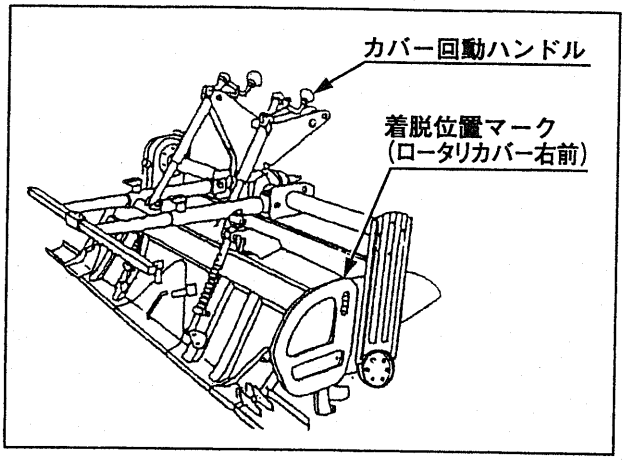
重要

- スタンドは、必ず接地している事を確認してください。

AT 01 00650

整理番号 16A

②ロータリのカバー回動ハンドルを操作して、カバー回動位置を着脱位置マークに合わせてください。



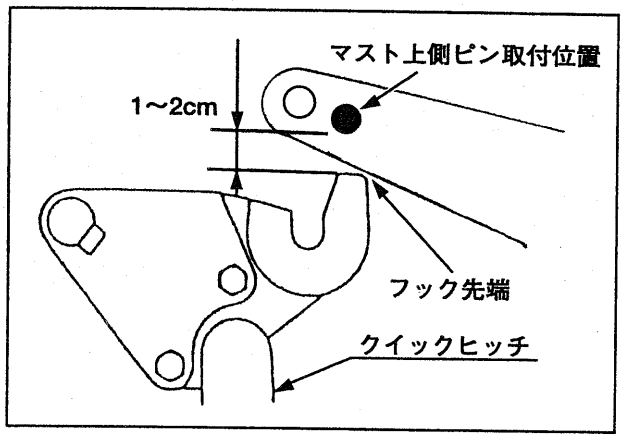
（6）クイックヒッチを下げ、フックの先端がマスト上側ピンのやや下（1～2cm）にくるようにバックしてください。

重要

●トラクタをロータリの中心に合わせまっすぐ直角になる様にバックしてください。

⚠ 注意

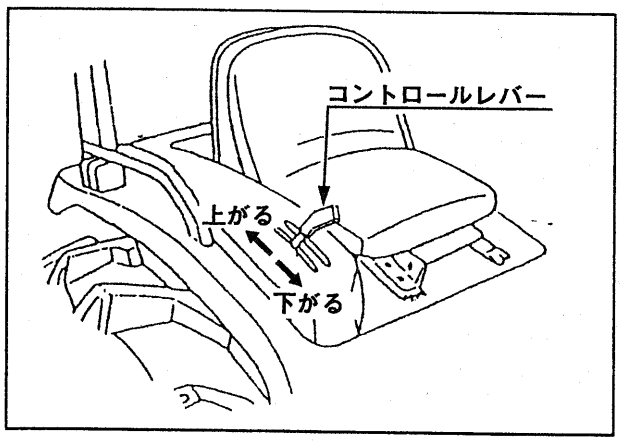
●マスト上側ピンの取付位置を確認してください。まちがうと損傷事故の原因となります。



（7）クイックヒッチをゆっくり上げ、フック部がマスト上側ピンに確実に引っ掛かったことを確認してから、ロータリをつり上げてください。

重要

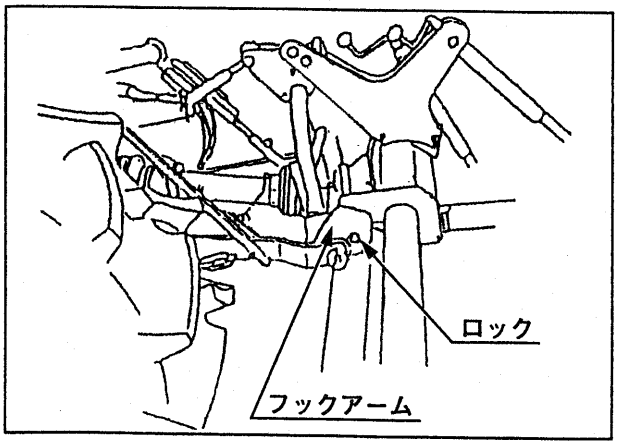
●ユニバーサルジョイント（スプライン部）が完全にドッキングできるまで、ロータリを持ち上げすぎないでください。（耕うん爪が地面から5~10cm程度の高さにしてください。）



（8）クイックヒッチでロータリをつり上げるとロータリは自動的にクイックヒッチに「ロック」され、同時にユニバーサルジョイントも噛み合います。

重要

●ユニバーサルジョイントが噛み合わなかったりした場合は無理をせずロータリを下げ、手順(6)より再度やり直してください。



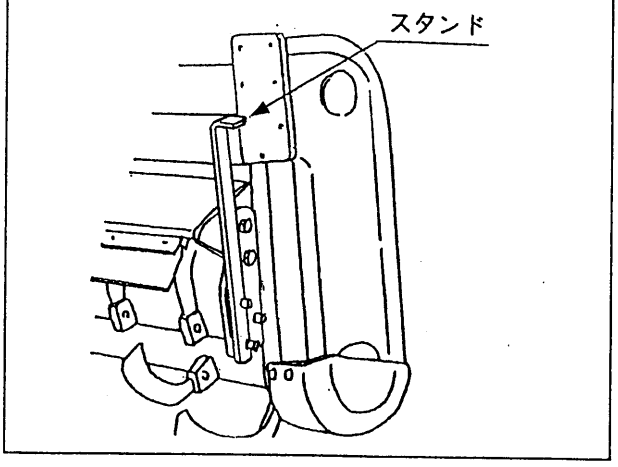
整理番号 17A

AT 0401140

⚠ 注意

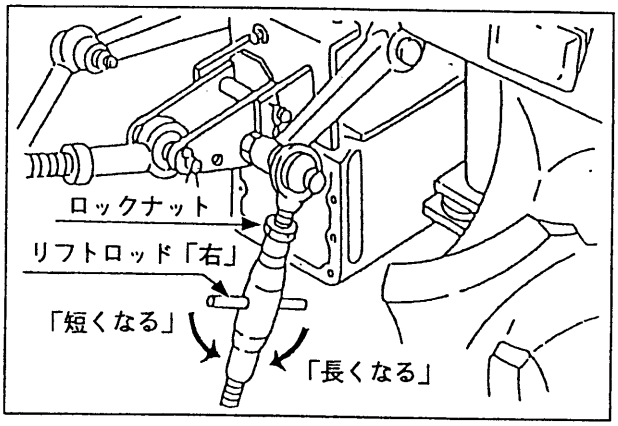
- フックアームによりロータリの外れを防止しています。確実にロック状態にあるか確認してください。確認ができたら装着は完了です。

収納（作業）状態



（9）尾輪なし（B型以外）仕様については図のようにスタンドをロータリ着脱状態から収納（作業）状態に調整してください。
調整（操作）要領は21ページを参照してください。

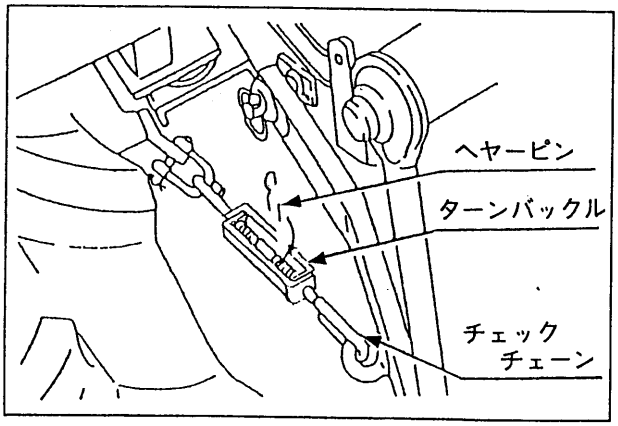
(10) リヤカバーの「下げロック」を解除し、リヤカバーがフリーで動くことを確認してください。
調整(操作)要領は(20ページ)を参照してください。



(11) ロータリの左右の傾きを調整をします。
ロータリを持ち上げた状態で、ロータリの爪軸がトラクタの車軸と平行になるようにしてください。
調整はリフトロッド「右」で行います。
調整後、リフトロッド「右」が自由に回転しないようにロックナットで固定してください。

重要

- ロータリがトラクタと平行になっていないと左右の耕深が異なり、砕土・均平性能が悪くなります。



(12) トラクタとロータリの中心を合わせます。
ユニバーサルジョイントが、上から見て一直線になるようにチェックチェーンを左右均等に張り、ヘヤーピンでロックしてロータリの横ぶれを防止してください。

重要

- ユニバーサルジョイントの直線がずれていると、振動や騒音の原因となります。
- ロータリを回転しながら上げ下げし、ユニバーサルジョイント部からの異音・振動がないか確認します。この時、耕うん爪が接地しないよう注意してください。もし異音・振動が発生した場合は、ロワリンクとリフトロッドの取り付け位置を確認後、トップリンク長さを音の出ない長さに調整してください。

AT 01 00650

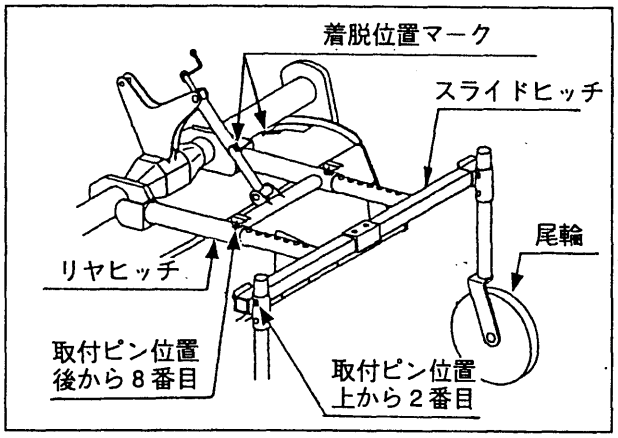
取り外しかた

■S型：直装仕様ロータリ

取り付けと逆の手順で行なってください。

■D型：クイック４Ｐ仕様ロータリ

（1）ロータリを着脱姿勢にします。



● 尾輪付（B型）仕様

①尾輪の前後方向、上下方向位置は図のように取付ピンにて正しくセットしてください。

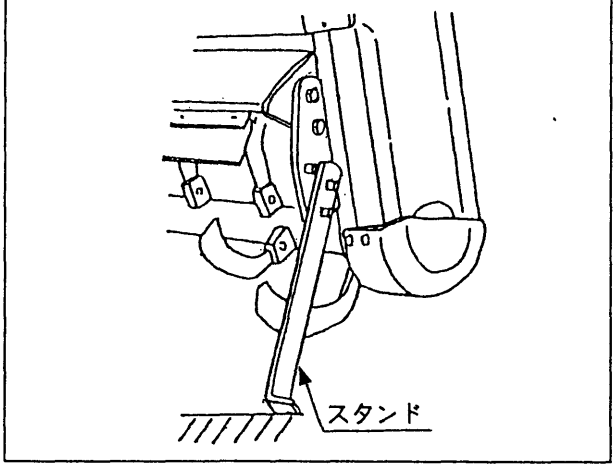
②ロータリの耕深ハンドルを操作して、リヤヒッチ角度を着脱位置マークに合せてください。

⚠ 注意

- 尾輪は必ず左右取り付けてください。
- 調整後ロータリが転倒しないことを確認してください。

● 尾輪なし（B型以外）仕様

ロータリ着脱状態



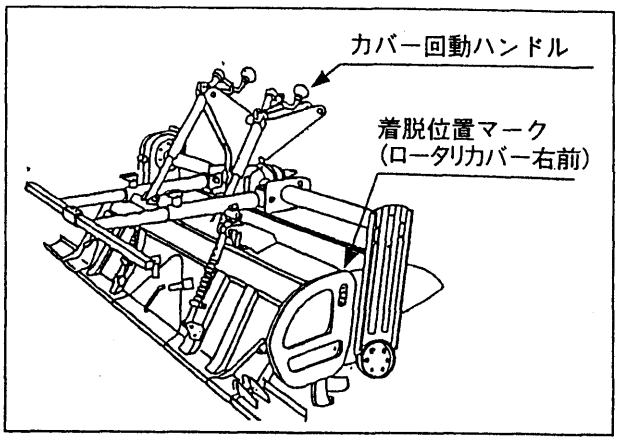
①スタンドを図で示す、ロータリ着脱時の状態に調整してください。
調整（操作）要領は（21ページ）を参照してください。

②リヤカバーを「下げロック」の状態に調整してください。
調整（操作）要領は（20ページ）を参照してください。

KC100650

整理番号 19A

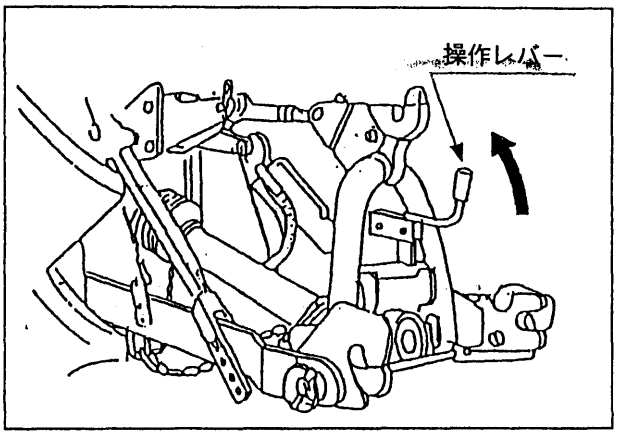
③ロータリのカバー回動ハンドルを操作して、カバー回動位置を着脱位置マークに合せてください。



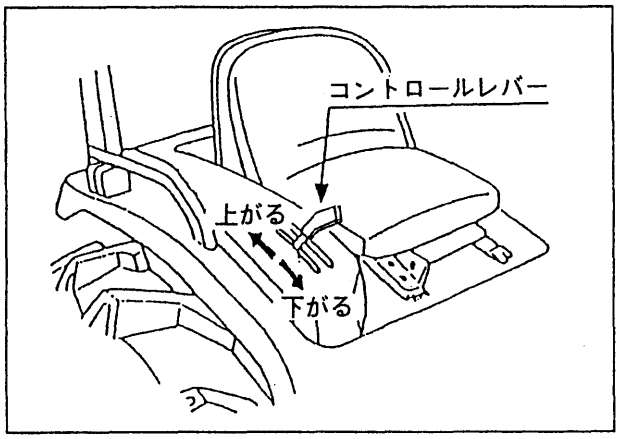
⚠ 注意

- スタンドは確実にロックされていることを確認してください。
- スタンドはロータリの着脱時以外は必ず、収納(作業)状態(21ページ参照)にしておいてください。

(2) 操作レバーをロック解除（矢印）の方向に操作してください。



(3) ロータリーを降ろすと、トラクタとロータリが分離されます。



(4) トラクタを低速で静かに前進させてください。

整理番号 20

作業前の点検

⚠ 注意

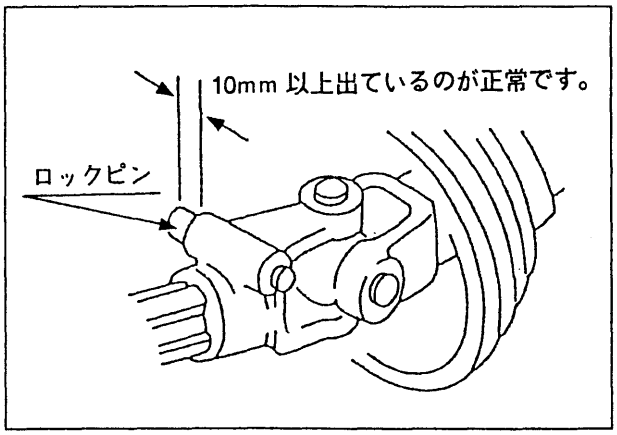
- 作業前の準備と点検および調節をするときは、トラクタを平坦な広い場所に置き、
  （1）エンジンを止める。
  （2）油圧降下速度調節つまみを「ロック」の位置にする。（1ページ参照）
  （3）パーキングブレーキをセットする。
  （4）リヤカバーを上げロックする場合は19ページ参照のこと。

点検箇所

- 故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
  仕業点検は毎日欠かさず行なってください。

■点検順序

（1）前日の異常箇所
（2）ロータリ取付部の点検
　①ピンの抜け、脱落。
　②チェックチェーンのゆるみ。
　③ユニバーサルジョイントのロックピンのロック状態。
（3）ロータリ各部の点検
　①ロータリ各部のボルト・ナットのゆるみ。
　②爪軸固定ボルトのゆるみ。
　③標準型、耕うん爪取付けボルトのゆるみ。
　④M型仕様（固定方法は2種類あります）。
　　- ピン(ワンタッチ)とキャップ(ワンタッチ)の「固定」確認(31ページ参照)
　　- ワンタッチピンのロックプレートの「固定位置」確認(32ページ参照)
　⑤チェンケース、ギヤケースのオイル量確認。



重要

- オイルは工場出荷時に入れてありますが、
  念のためご使用前に確認してください。
  (35ページ参照)

AT0100650
整理番号 21A

作業に適した調整と使いかた

適応作業速度

● 作業目的と耕作地の条件に合わせて、変速位置（車速）を決めてください。
次表は、作業の目安として活用してください。

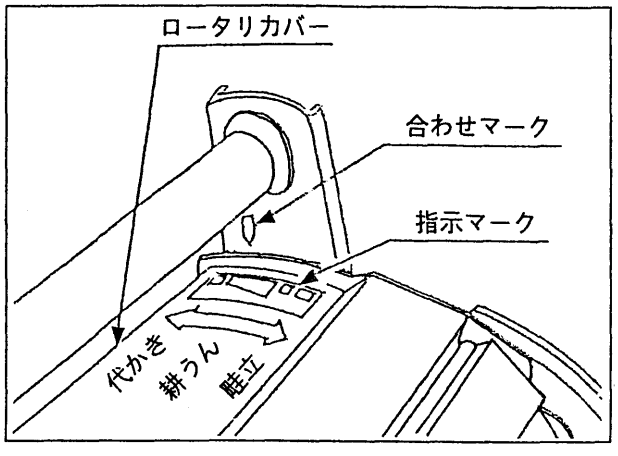
変　速　レ　バ　ー　位　置　と　作　業

適応トラクタ		THS26・24・22						TH26・24・22							
走行変速 / 作業	副変速	低速			高速			低速				高速			
	主変速	1	2	3	1	2	3	1	2	3	4	1	2	3	4
荒耕し	PTO変速	1速						1速							
細土耕うん 細土畦立		2～3速						2～3速							
代かき			1～2速							1～2速					
乾土畦立		1～2速						1～2速							
施肥・播種 マルチ作業		2～3速						2～3速							
移動						中立								中立	

カバー回動の使いかた

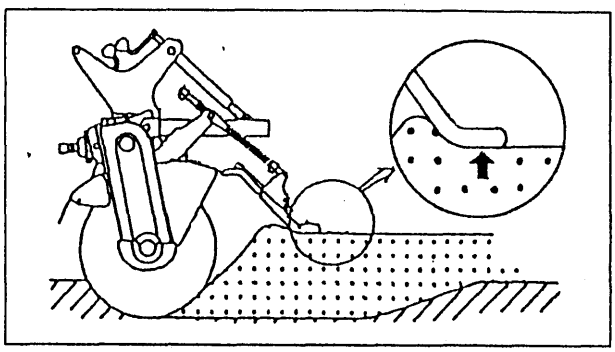
● このロータリは、ロータリカバーが回動できる構造となっています。
ロータリカバーを回動させることにより、畦立・耕うん・代かきなどの作業内容に合った理想的な耕うん姿勢が得られます。次の要領でロータリカバーを回動してください。

（1）作業内容により回動ハンドルを回し、ロータリカバー上面に貼ってある「指示マーク」をサイドプレートの「合わせマーク」に合わせ、作業にあったカバーの位置を選んでください。



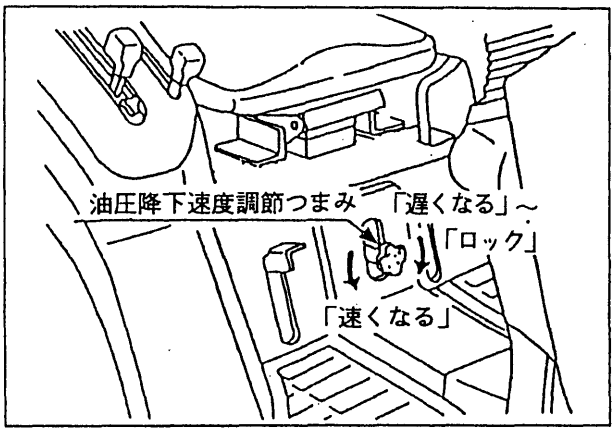
AT01 00650
整理番号 22A

（2）一般耕うんは「耕うん」位置を目安に調整してください。畦立てをする場合は、カバーを「畦立」方向に回動します。代かきをする場合はカバーを「代かき」方向に回動します。耕うん中のリヤカバーが、図のように平らに接地するよう調整しますと、仕上がりがきれいになります。



重要

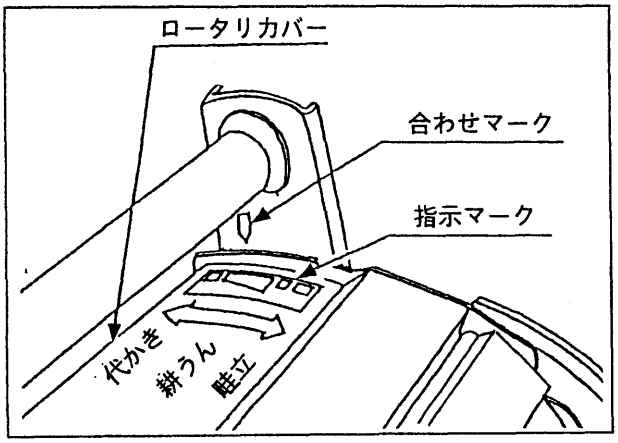
- 作業内容とカバーの回動位置を故意に大きく狂わせないで使用してください。
- ロータリカバーを「代かき」方向に回動して使用する場合は、必ず油圧降下速度調節つまみでロータリ下げ速度をやや遅め(1.5～2秒)に調整してください。



（3）次のようなほ場条件、作業条件のときは、回動位置をズラして使用してください。

①湿田でタイヤ沈下が大きい場合
回動位置を、少し「代かき」方向にズラして使用してください。

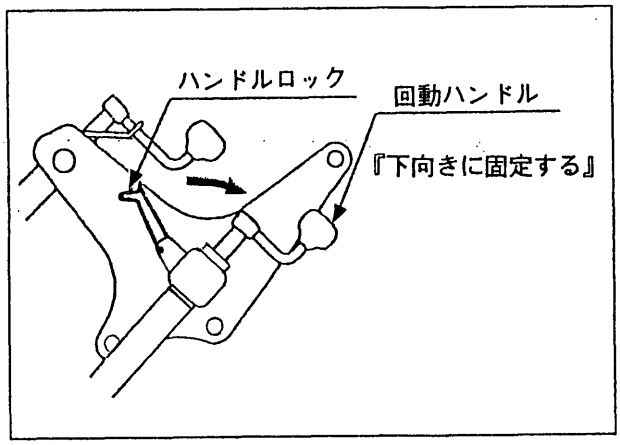
②地面にワラ、草の多い場合
「畦立」方向にズラして使用すれば、仕上りはきれいになります。



重要

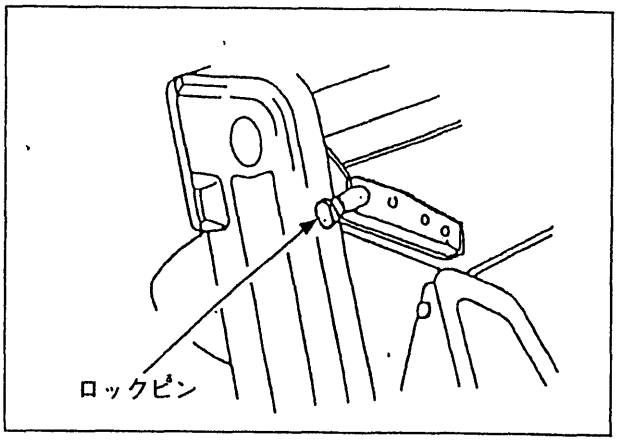
- 作業内容とロータリカバーの回動位置を大きくズラすと、オートロータリの作業範囲がずれてきますので注意してください。
(オートが働かなくなる場合があります。)

（4）調整後、カバー回動ハンドルは必ず下向きにし、ハンドルロックで固定してください。



整理番号 23

（5）T型（強力型）仕様にはロックピンが付いています。作業に合わせてカバーの位置を調整し、ロックピンにてカバーを固定してください。固定位置は深耕から浅耕しまで6段階です。代かき作業位置はありません、フリーの状態で使用してください。

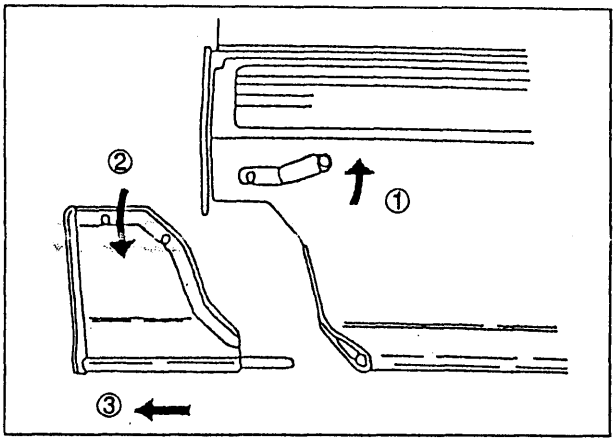


重要

- 特に石などの多いほ場では必ずロックピンにてカバーを固定してください。

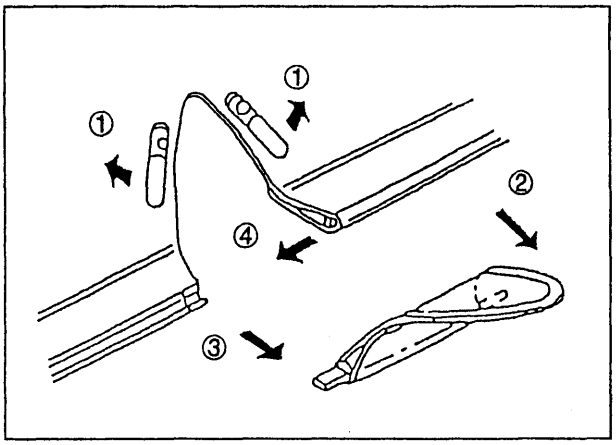
コーナーカバー

- 尾輪作業で尾輪を前に寄せ残耕を少なくする。又は片培土作業をする時に取り外してください。
  取り扱いは、図の要領で行ってください。



センターカバー（V型仕様）

- 畦立作業をする時は取り外してください。
  取り扱いは、図の要領で行ってください。



整理番号 24

リヤカバーロックの使いかた

● このロータリはレバー操作により、リヤカバーをはね上げた状態（上げロック）とリヤカバーを下げた状態（下げロック）で固定することができる構造となっています。 次の作業に活用してください。

「上げロック」……爪交換・泥落し・洗浄作業
「下げロック」……ロータリ着脱時のスタンド・代かき時の土寄せ作業

⚠ 注意

- 爪交換･泥落し･洗浄作業は必ず、エンジンを止めてから行なってください。
- リヤカバーをはね上げる場合は、耕深レバーを「最深」位置にし、センサーのリンクを「解除」の位置にしてください。
- リヤカバー下げロック（スタンド）として使用する場合は、必ず前スタンドと合わせて使用してください。
- 尾輪付き仕様（B型式）には前スタンドがありませんので、リヤカバースタンドでの着脱は転倒のおそれがある為、ぜったいにしないでください。
- 土寄せは、代かき時ほ場四隅での「土引き」等、軽作業以外には使用しないでください。
- レバーの操作時、指や手を挟まないように注意してください。

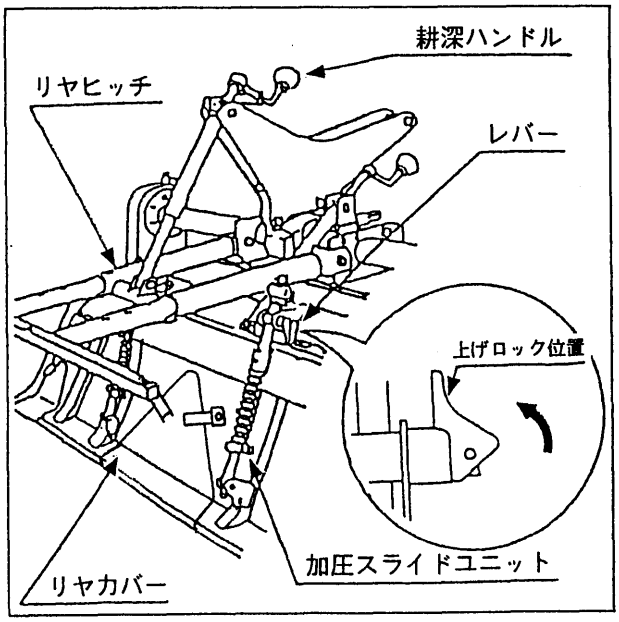
■リヤカバー上げロック

（1）耕深ハンドルを「深」方向に最後まで回して、リヤヒッチを上昇させます。

（2）加圧スライドユニットを１番下の溝にセットし、スプリングがたわまない状態にします。

（3）左右２個のレバーを上げロック位置にします。

（4）リヤカバーの後部を持ち上げると自動的に上げロックになります。



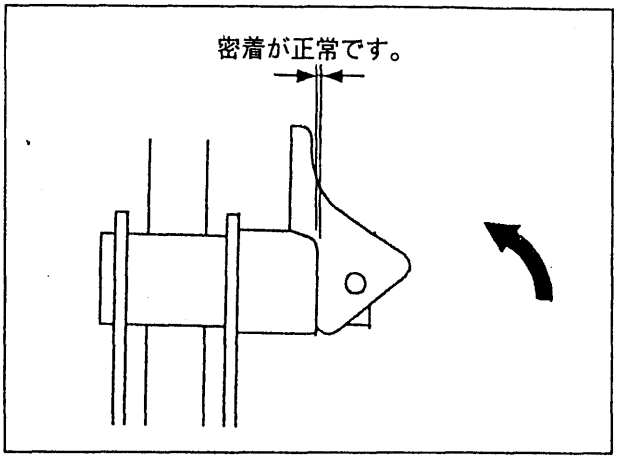
整理番号 25

重要

- リヤカバー上げロックでリヤカバーをはね上げた状態では、絶対に耕うん作業や路上走行をしないでください。

⚠ 注意

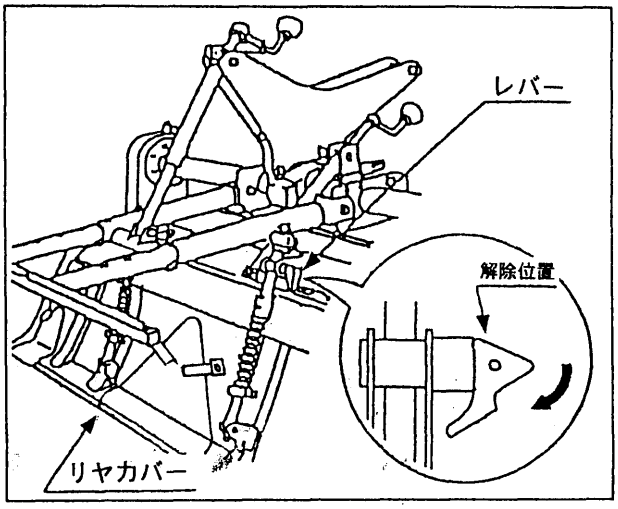
- 左右のレバーが正確に「ロック」の状態になったかどうかの確認は、レバーにあそびがなく、密着しているかどうかで確認してください。



■上げロック解除

（1）左右2個のレバーを解除位置にします。

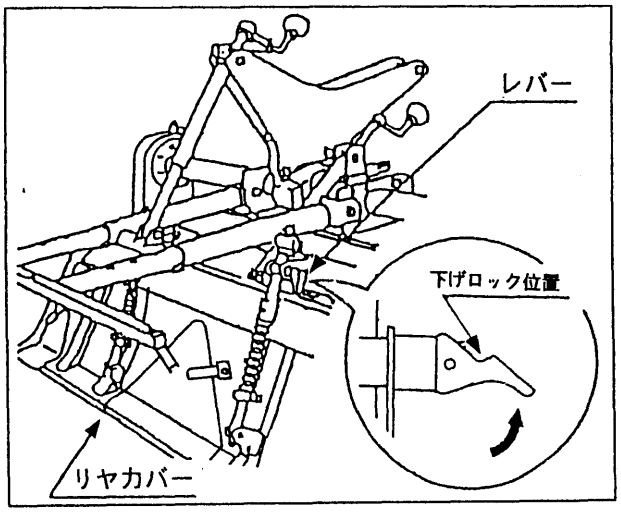
（2）リヤカバー後部を持ち上げると、自動的にロックは解除されます。



■リヤカバー下げロック

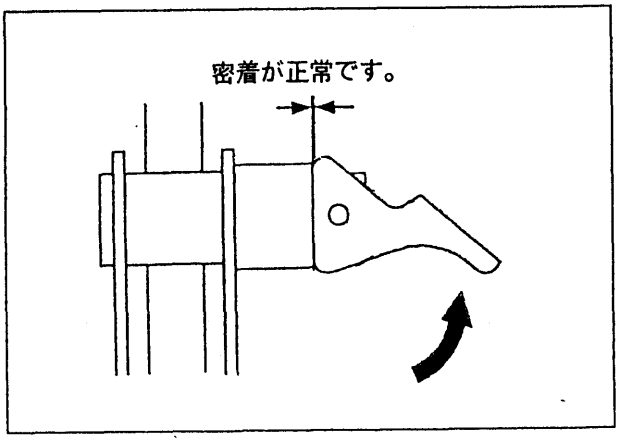
（1）左右2個のレバーを下げロック位置にします。

（2）リヤカバー後部を下側に押し下げると、自動的に下げロックになります。



⚠ 注意

- 左右のレバーが正確に「ロック」の状態になったかどうかの確認は、レバーにあそびがなく、密着しているかどうかで確認してください。

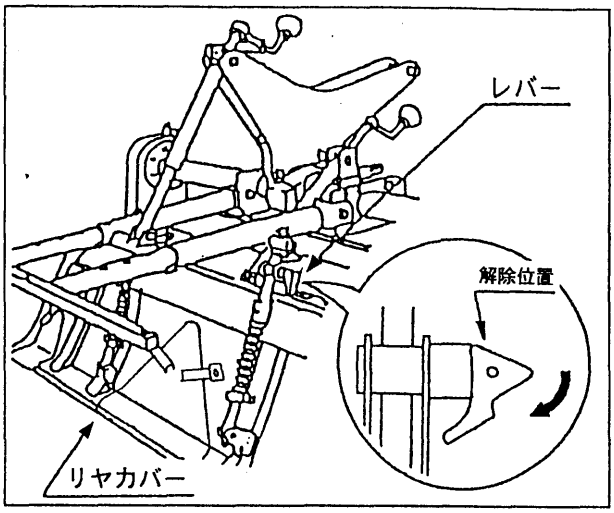


整理番号 26

■下げロック解除

（1）左右2個のレバーを解除位置にします。

（2）リヤカバー後部を下側に押し下げると、自動的にロックは解除されます。

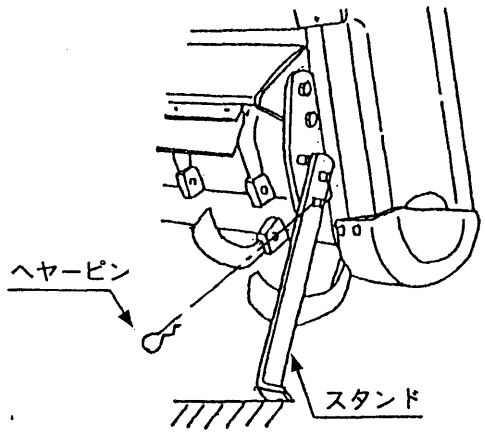


スタンドの使いかた（尾輪付仕様は除く）

● 標準仕様（尾輪なし仕様）にはチェンケースの前にスタンドが付いています。ロータリの着脱時に使用してください。
調整（操作）は次の要領で行なってください。

下向きが着脱状態です。
ヘヤーピンで確実に外れ止めをしてください。

ロータリ着脱状態

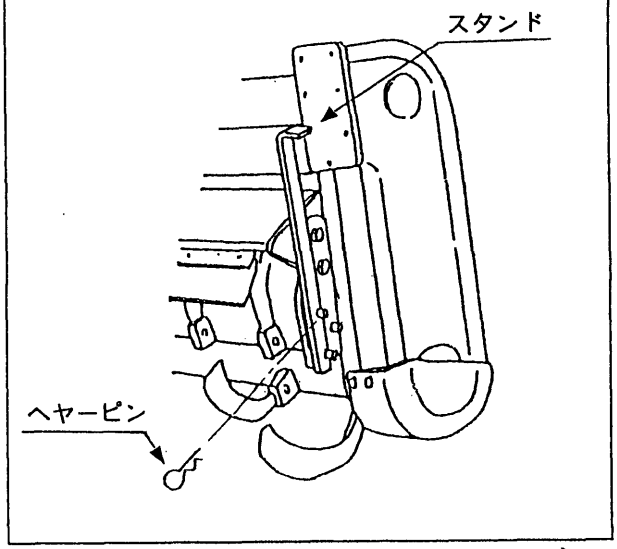


⚠ 注意

- **スタンドは確実に固定されていることを確認してください。**
- **スタンドはロータリの着脱時以外は必ず、収納（作業）状態にしておいてください。**

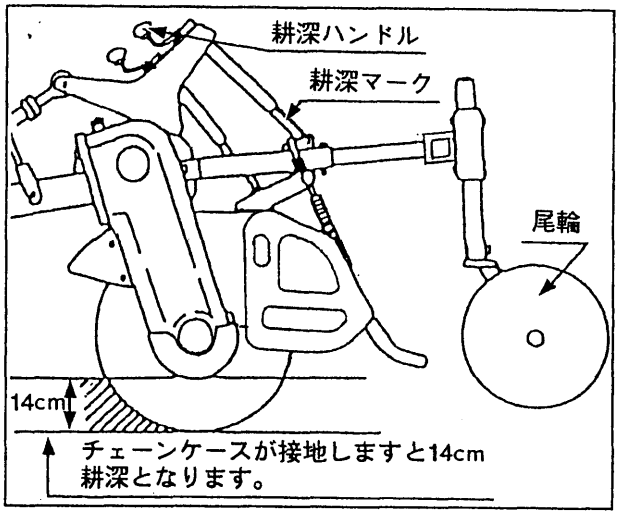
上向きが収納（作業）状態です。
ヘヤーピンで確実に外れ止めをしてください。

収納（作業）状態



耕深調整のしかた(B型、尾輪付仕様)

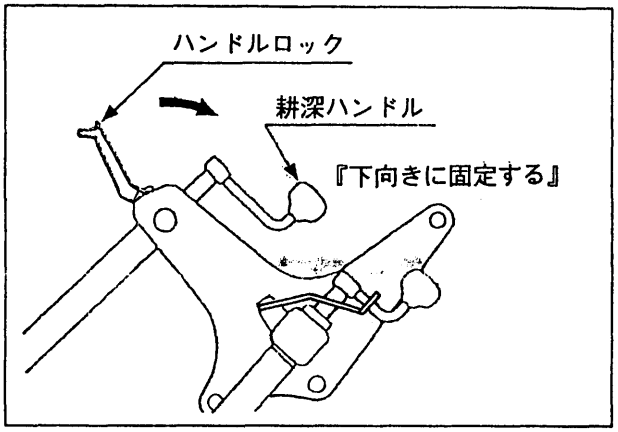
（1）耕深ハンドルを回すことにより、耕深を自由に選ぶことができます。また、耕うん深さ調整の目安として「耕深マーク」の目盛りをご活用ください。



⚠ 注意

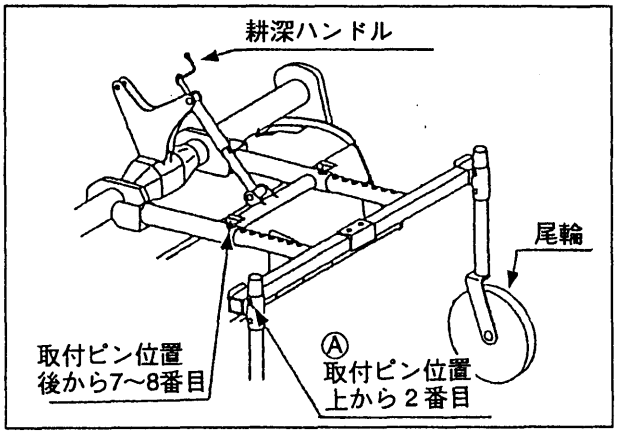
- 作業中の側方及び前方からの耕深調整は絶対しないでください。
  もし必要の場合はトラクタ及びロータリを停止してから行ってください。

（2）調整後、耕深ハンドルは必ず下向きにし、ハンドルロックにて固定してください。



尾輪位置の調整(B型、尾輪付仕様)

- 尾輪は前後方向に10段階、上下方向に10段階の調節ができます。作業に合わせて調節してください。尾輪は右図が標準の位置です。



（1）ロータリの性能を十分発揮するため、尾輪はリヤカバーに接触しない範囲で、近接させて使用してください。

（2）耕深ハンドルを回すことにより耕うん深さの調整を行ないますが、湿田耕うんや、代かき作業で希望する耕深が得られない時は、尾輪の上下も合せて調整してください。

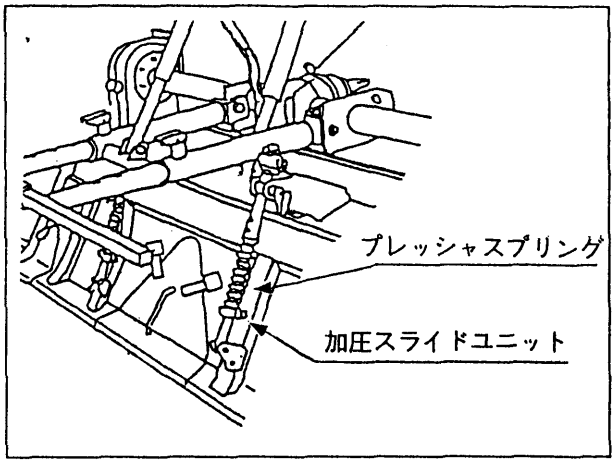
重要

- 作業中、Ⓐ部のピンは必ず外側から挿入してください。ヘヤーピンが抜けるおそれがあります。

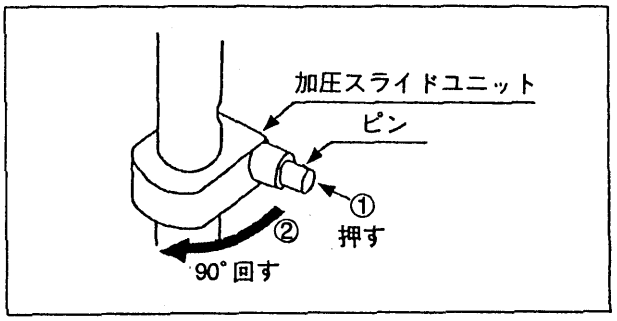
整理番号 28

プレッシャスプリング調整のしかた

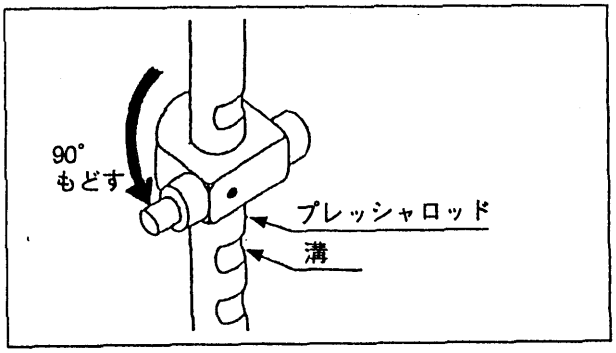
● プレッシャスプリングの調節は、加圧スライドユニットの位置を必要とする所まで移動することで行なってください。



（1）加圧スライドユニットは、ピンを指で押し、ユニットを90°回すことにより、プレッシャロッドの溝に引掛かることなく移動ができます。



（2）固定は、ユニットを必要とする所まで移動した後、90°もどすと自動的にロックされます。ピンが確実に溝に入っているかを必ず確認してください。

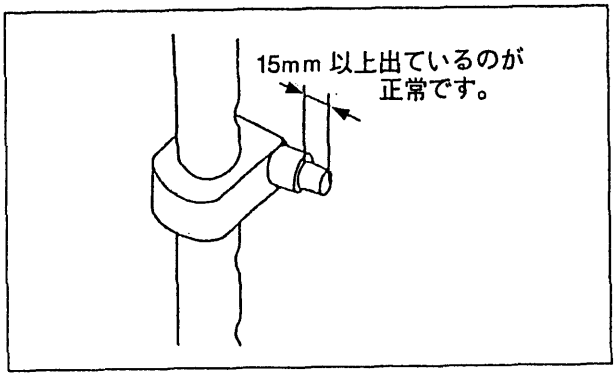


重要

● プレッシャスプリングの加圧力を必要以上に強くすると馬力ロスの原因となります。

⚠ 注意

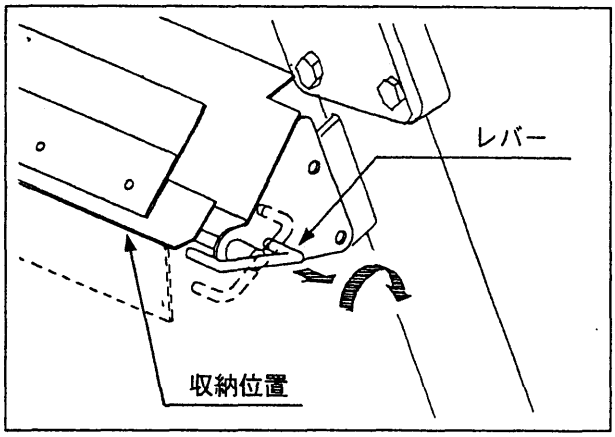
● ピンが確実に溝にはいったかどうかの確認は、ピンの頭が15㎜以上出ているかどうかで確認してください。



整理番号 29

フロントカバーの使いかた

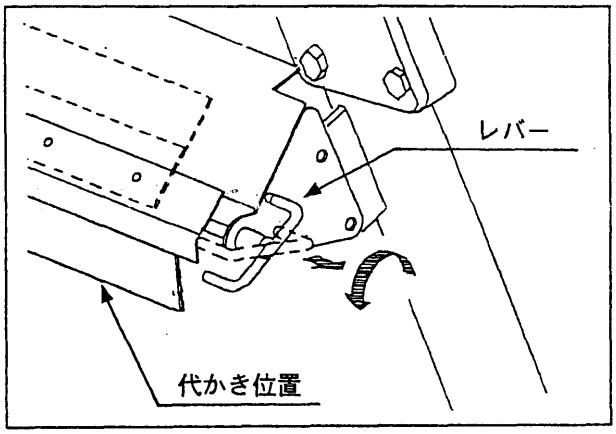
● フロントカバーは“上げ下げ”調整が可能です。作業に合わせて使い分けてください。



レバー操作は以下の手順で行なってください。
①ロータリ全体を最上げにする。
②ロータリカバー回動位置を「代かき」に合せる。
③フロントカバーを作業に合せて調節する。

（1）通常の耕うん作業
フロントカバーのチェンケース側のレバーを横に引き、そのまま回して、“収納位置”にして使用してください。

（2）代かき作業
チェンケース前のレバーを操作し“代かき位置”にして使用してください。
但し、“代かき位置”にしたフロントカバーに直接土や障害物が接触する場合は、“収納位置”にしてください。



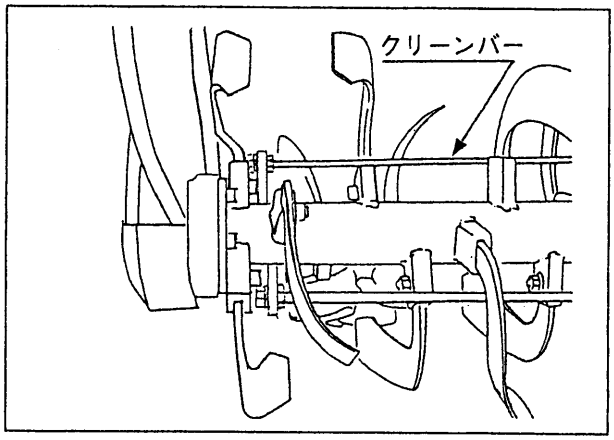
⚠ 注意

● フロントカバーの“上げ下げ”操作時、指や手を挟まないように注意してください。傷害事故を引起こすおそれがあります。

整理番号 30

クリーンバー(草巻付き防止バー)について

※T型・M型にはありません。



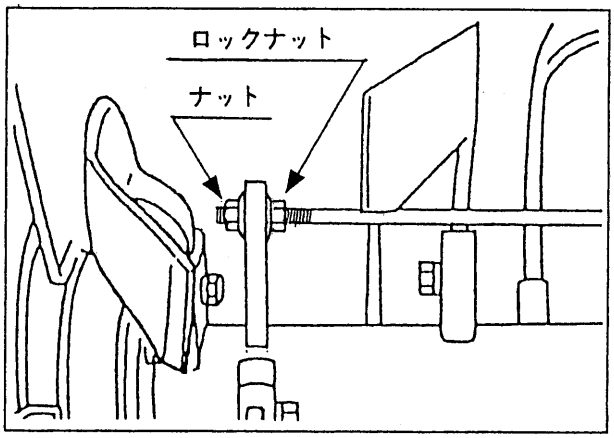
- 爪軸と平行して取り付けられたクリーンバーが、爪軸への草の巻付きを少なくし、草のからみによる馬力ロスを抑えます。

重要

- 石の多い圃場では、クリーンバーの使用を控えてください。
- クリーンバーが損傷した場合は、すみやかに新品に交換してください。
- 耕うん爪は、ヰセキ純正部品を使用してください。
- 耕うん前にクリーンバーがゆるんでいないか確認してください。
  ゆるんでいる場合は“クリーンバーの取り付けかた”を参考に増し締めを行なってください。
- 外側のナットは必要以上に強い力で締め付けないでください。破損する恐れがあります。

■クリーンバーの取り付けかた

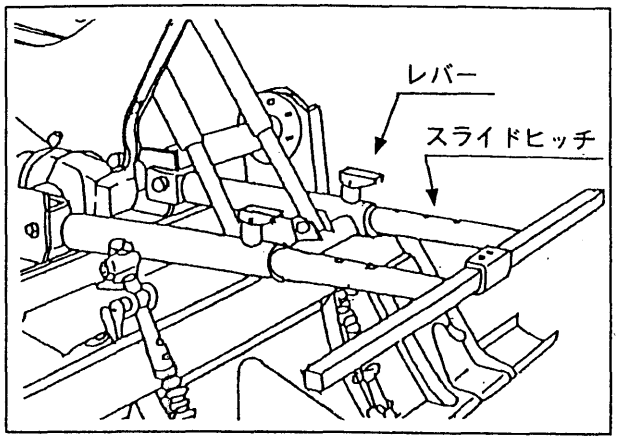
（1）クリーンバー２本を爪軸両端部にある取り付け穴に通し、外側のナットで締め付け、内側のロックナットで、確実に固定してください。
　ロータリを空転させた時に、干渉音が出る場合は、ロックナットをゆるめ、外側のナットで増し締めして、干渉音を防止してください。



整理番号 31

スライドヒッチの前後調節のしかた

● スライドヒッチの前後調節は、フレームのレバーを操作して行ないます。
左右のレバーを立てると、スライドヒッチはフリーになり、前後に動きます。
左右のレバーを倒して、スライドヒッチを前後に軽く動かすと固定されます。



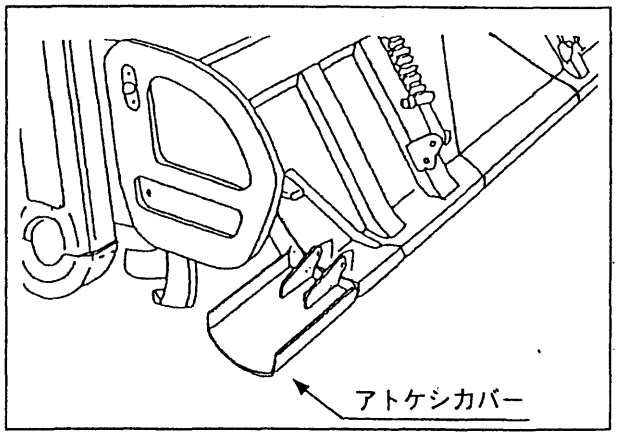
重要

固定した時は、スライドヒッチが左右とも確実に固定されているかを、必ず確認してください。

● レバーの下側に押しボルトがあります。
スライドヒッチのガタを止めたい時に締め付けてください。

アトケシカバーの使いかた

● アトケシカバーを開くことで、隣接耕や畦立作業時の段差が少なくなります。



⚠ 注意

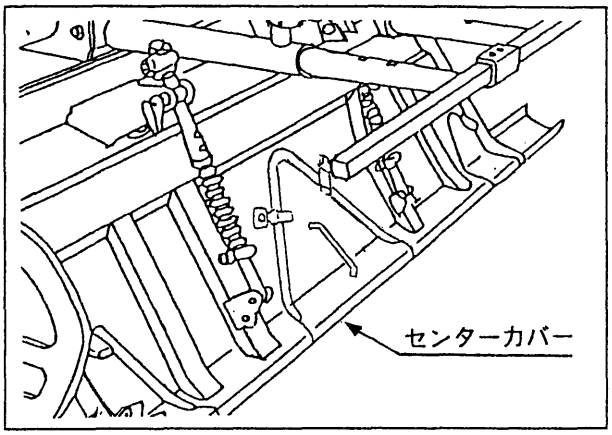
● 開いたままでの走行は危険です。
作業終了後は必ず閉じてください。

AT 01 00650

整理番号 32A

畦立器の取り付けと作業のしかた

■畦立器の取り付けかた

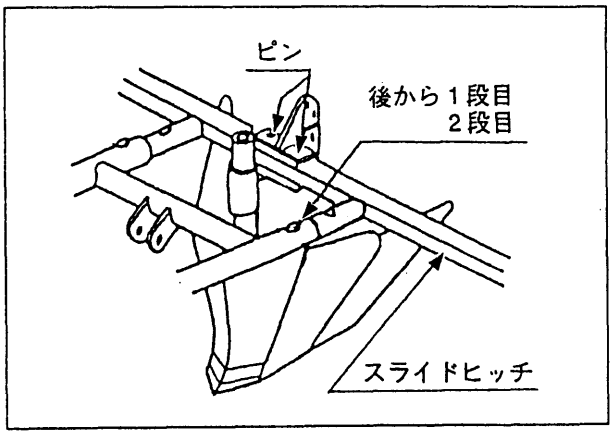


（1）三角切欠き付リヤカバー（V型仕様）

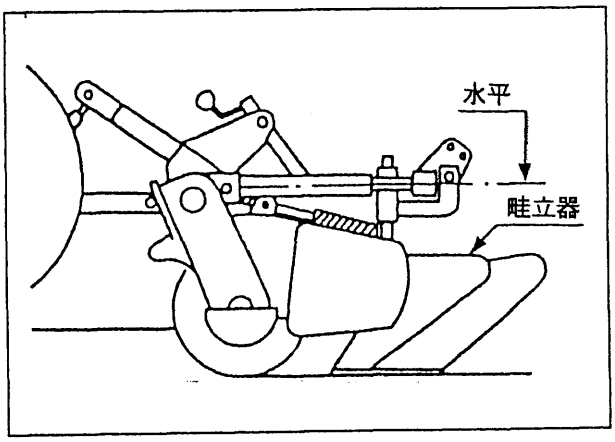
①カバー回動ハンドルを回して、指示マークの「畦立」位置に「合わせマーク」を合わせてください。（16ページ参照）

②センターカバーを取り外します。（18ページ参照）

③スライドヒッチを後から１段目または２段目の位置に調節してください。
この位置を標準位置としておりますが、ほ場及び作業条件に合わせて最適な位置を選んでください。



■畦立作業のしかた



（1）畦立器は希望する耕深で、スライドヒッチがほぼ水平となるように調整してください。

（2）ロータリの性能を十分発揮するため、畦立器がリヤカバーに接触しない範囲で、接近させて使用してください。すき間の調節は、カバー回動ハンドルを回して行なってください。

（3）耕深は畦立器底面によって決まりますので、尾輪は取り外してください。

（4）作業速度は「適応作業速度」(16ページ参照)を目安とし、ほ場条件によりＰＴＯ変速及び走行速度を選んでください。

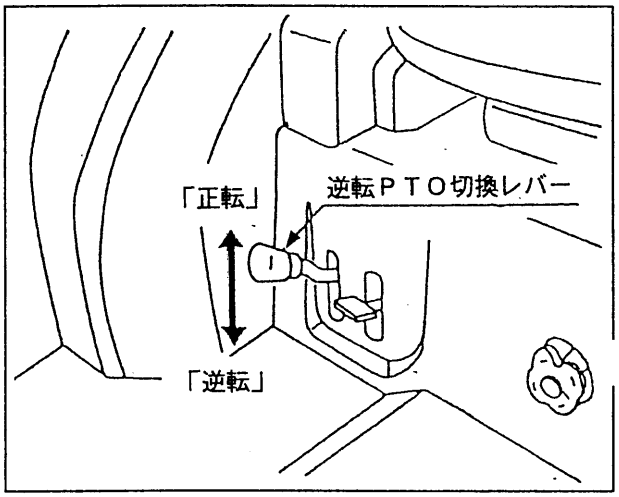
整理番号 33

逆転ＰＴＯの使いかた

● トラクタの逆転ＰＴＯは、次のような作業をする場合に使用してください。

■土寄せ作業

代かき作業など、ほ場の四隅にもりあがった泥などを均平にしたい場合、逆転ＰＴＯ（１速）を使用して土寄せを行なうと、効果があります。
この時エンジン回転数を1200～1500回転で作業すると泥飛びも少なくなります。
また、リヤカバーロックの「下げロック」を合わせて使用するとより効果的です。
（リヤカバーの「下げロック」は20ページを参照してください。）



■草、ワラなどの除去作業

爪軸に巻き付いた草、ワラなどを取り除く場合は逆転ＰＴＯ（２速以上）を使用して数分間爪軸を空転させてください。巻き付きがゆるみ取りやすくなります。

重要

- 逆転ＰＴＯを使用しての一般ほ場における土寄せ作業や逆転耕うん作業は絶対に行なわないでください。
- 正逆転ロータリでの正転・逆転切り換えはかならずロータリ側のチェンジ切換えレバーにて行ないトラクタ側のＰＴＯは常に正転で使用してください。

⚠ 注意

- 巻き付いた草、ワラなどを除去する場合は、確実にエンジンを停止させ、油圧降下速度調節つまみを「ロック」の位置にしてから行なってください。

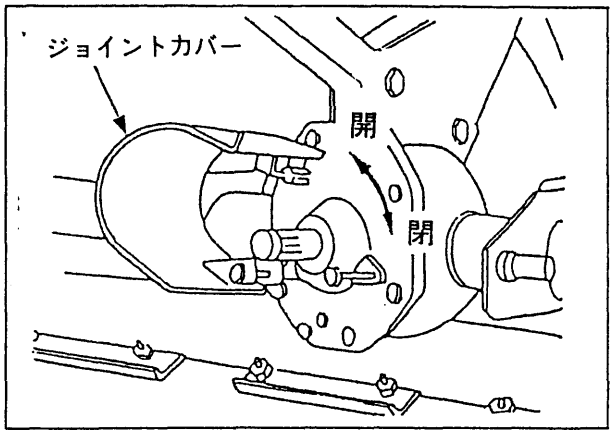
AT0100650

整理番号 34A

ジョイントカバーの使いかた(S型：標準仕様)

● ジョイントカバーは、開閉ができます。
ユニバーサルジョイントの着脱は、開の状態で行なってください。作業中は、必ず閉じた状態で使用してください。

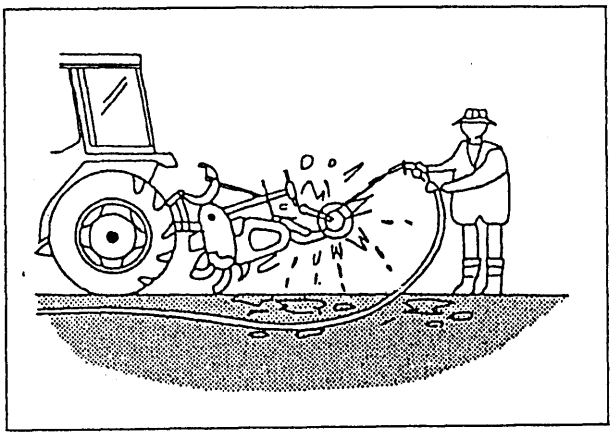
※D型仕様にはありません。



手入れについて

● 水洗いをする場合は電装品等に直接圧力水をかけないようにしてください。

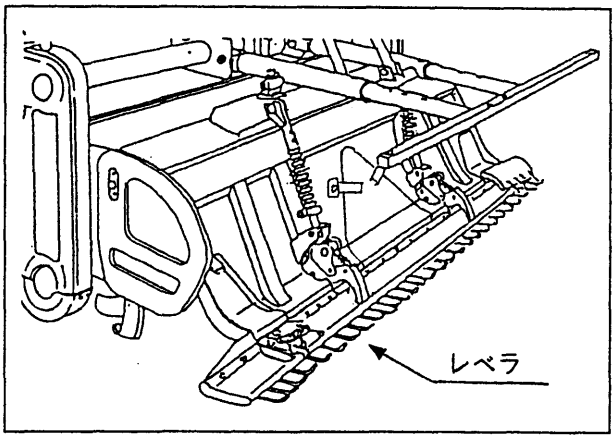
● 高圧洗浄機で洗車すると、圧力水によりラベルがはがれるおそれがあります。
圧力水を直接ラベルにかけないでください。



整理番号 35

リヤカバーレベラの使いかた　（注文部品）

- リヤカバーレベラは、表面仕上りの向上・引き起こし防止に役立ちます。
- 畑地や、植付床、播種床など、レーキ跡が残ると後作業に悪い場合は、レーキを取り外してください。
- 代かき作業や畑・水田の細土作業で、レーキが草やワラを引掛けたり、表面を引き起こす場合は、レーキを取り外してください。



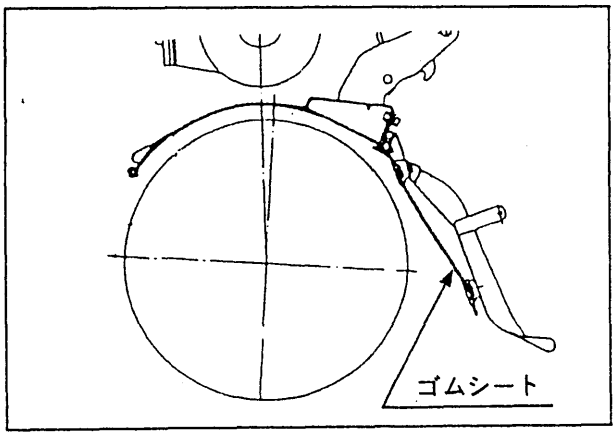
※レベラと尾輪の共着はできません。

⚠ 注意

- リヤカバーレベラの取り付け、取り外し時は、エンジンを停止してパーキングブレーキをかけ、トラクタが動かないようにしてください。
- ツース付き仕様のレベラを着脱する場合は、ツース先端に注意して作業を行なってください。注意を怠るとケガをする恐れがあります。

マッドロップ(土付着防止)について　（注文部品）

- リヤカバーの内側に特殊なゴムシートを取り付けることにより、リヤカバーに付着する土の量を少なくすることができます。
  次の事項を良く守り、使用してください。



重要

- 作業前に、マッドロップのゴムがしっかりと装着されているか、ボルト類のゆるみがないか確認し、ゆるみがある場合は確実に締め付けてください。
- ロータリを地表に降ろしたままバックしないでください。耕うん爪でゴムカバーを損傷させる恐れがあります。
- 石の多いほ場での使用はさけてください。
- 鋭利な物（鎌・ナイフ等）での土落とし作業はさけてください。
- 耕うん爪はヰセキ純正部品を使用してください。
- 普通爪の使用はさけてください。

整理番号 36

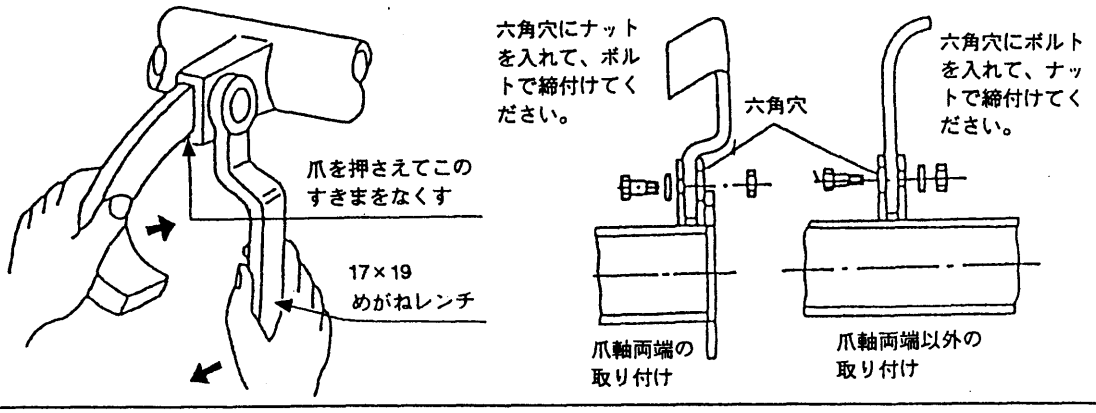
耕うん爪について

⚠ 注意

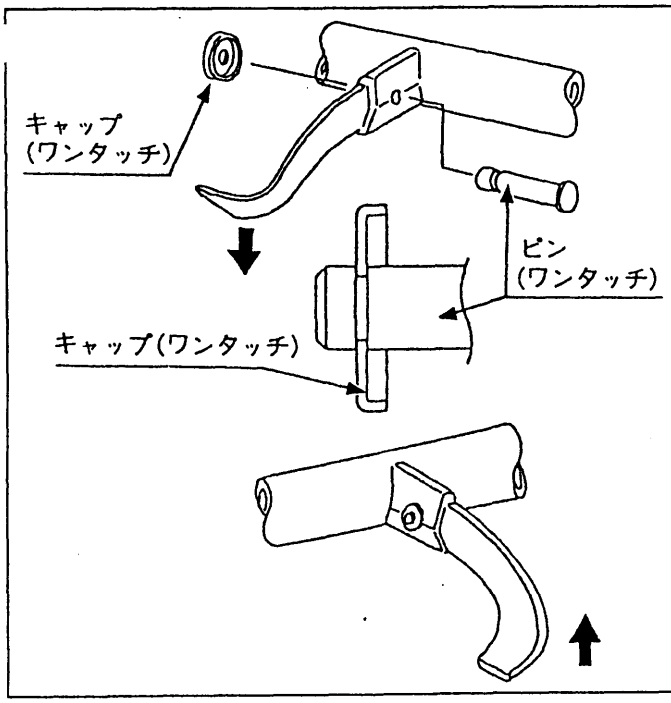
- 耕うん爪の点検や交換をするときには、トラクタを平坦な広い場所に置き、
（1）エンジンを止める。
（2）油圧降下速度調節つまみを「ロック」の位置にする。（1ページ参照）
（3）パーキングブレーキをセットする。
（4）リヤカバーを上げロックする。（19ページ参照のこと）

取り付けかた

■標準型（ボルト・ナットによる取り付けかた）



■M型（ピン・ワンタッチによる取り付けかた）



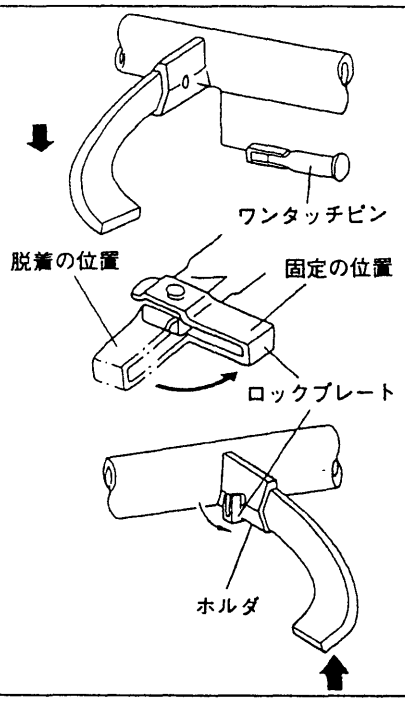
1）爪を差し込み、ピン(ワンタッチ)で位置決めをします。次に、キャップ(ワンタッチ)で固定します。キャップはピンの溝に確実に装着してください。装着後キャップがフリーで回転することを確認してください。

2）低速で耕うんし，爪をしっかりとホルダに食い込ませてください。又は、爪を矢印（⬇）方向にハンマー等でたたきホルダのクサビに食い込ませてください。作業後、確実に爪がホルダに食い込んでいることを確認してください。

3）爪を外す場合は、爪がホルダに強く保持されているので、矢印（⬆）の方向にハンマー等でたたき力を加え、爪をフリーにしてください。次にキャップ（ワンタッチ)、ピン（ワンタッチ）を外してください。

整理番号 37

■M型（ワンタッチピンによる取り付けかた）



1）爪を差し込み、ワンタッチピンで位置決めをします。
次に、ロックプレートを固定の位置にします。
ピンと直角になるよう、きちんと回してください。

2）爪を矢印（➡）方向に押し付けて、ある程度ホルダのクサビにくいこませてください。

3）爪を外す場合は、爪がホルダに強く保持されているので、矢印（⬅）の方向に力を加え、爪をフリーにしてください。

重要

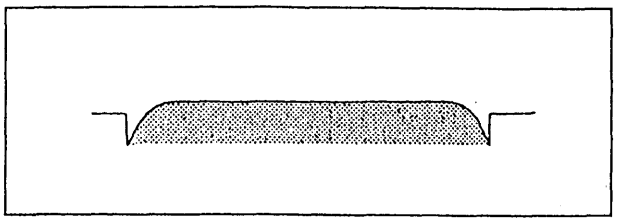
- 爪を抜いて作業すると、バランスが狂い、振動や騒音が出ることがありますので注意してください。
- 標準型の場合は、メガネレンチで力いっぱい締付けてください。
- M型仕様（固定方法は２種類あります）
  - ・キャップ(ワンタッチ)をピン(ワンタッチ)の溝に確実に取り付けてください。
  - ・ロックプレートを確実に「固定」の位置にしてください。
- 耕うん爪は回転径の正しい「ヰセキ純正部品」をご使用ください。

爪配列

- 爪の配列は、作業に合せて次の通り使いわけることができます。作業内容に合わせて選択してください。

■平面耕（標準）

一般水田・畑の耕うん作業・代かき作業・畑の細土・均平作業等に使用できます。

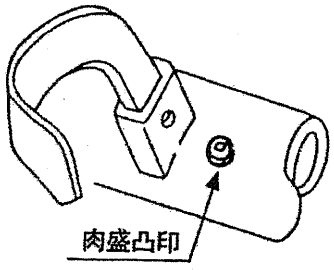


AT0100650

整理番号 38A

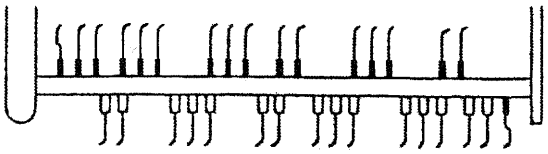
重要

- 肉盛凸印のあるホルダには、肉盛凸印側に爪の曲がりがくるように取り付けます。その他のホルダには逆に曲がった爪を取り付けてください。

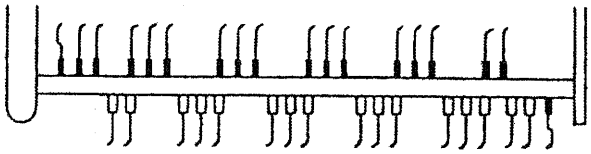


■ ＝肉盛凸印が「ある」ホルダです。
□ ＝肉盛凸印が「ない」ホルダです。

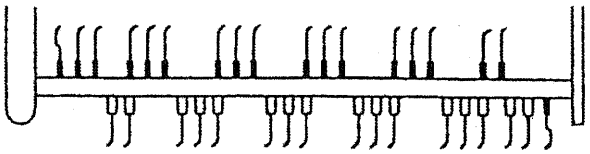
●ＡＲＨ140（標準型）



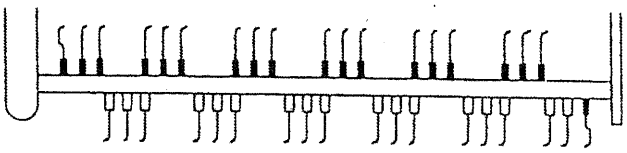
●ＡＲＨ140（M型・Ｔ型）



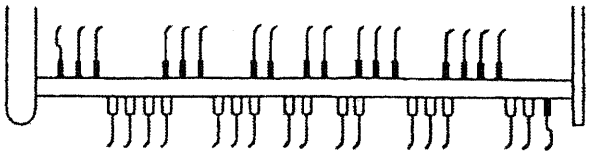
●ＡＲＨ150・160（標準型）



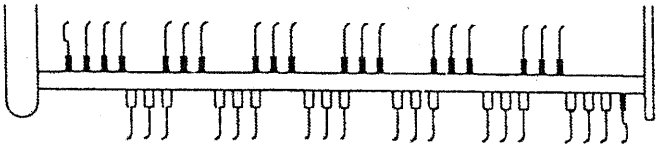
●ＡＲＨ150（M型・Ｔ型）



●ＡＲＨ140・150・160（Ｖ2型）

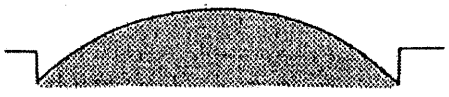


●ＡＲＨ160（M型）



■内盛耕

乾土効果を必要とする水田の耕うん作業、溝をまたいでの畦崩し作業に使用できます。

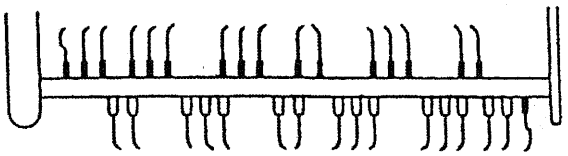


リヤカバーは、はね上げ尾輪を付けて作業します。

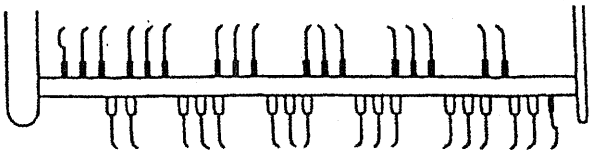
整理番号 38A－1A

AT0511530

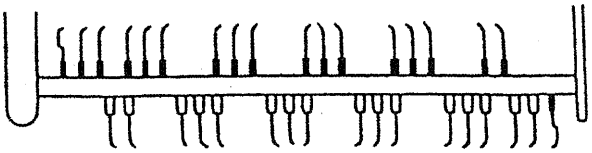
●ＡＲＨ140（標準型）



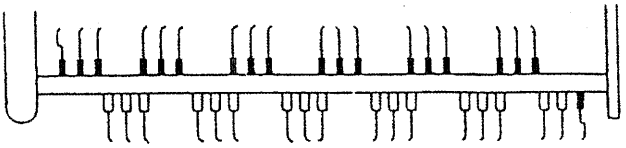
●ＡＲＨ140（Ｍ型・Ｔ型）



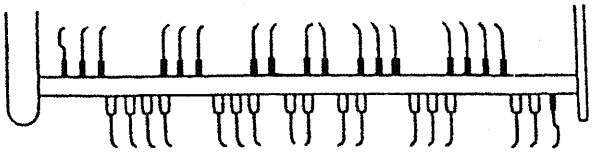
●ＡＲＨ150・160（標準型）



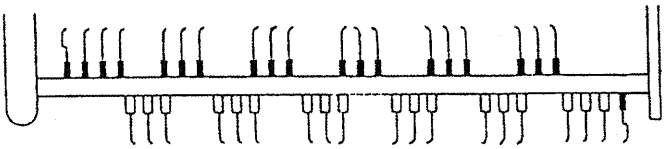
●ＡＲＨ150（Ｍ型・Ｔ型）



●ＡＲＨ140・150・160（Ｖ2型）



●ＡＲＨ160（Ｍ型）

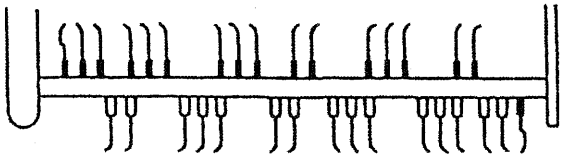


■外盛耕

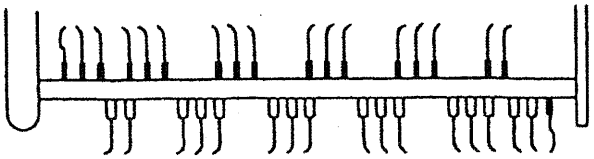
乾土効果を必要とする水田の耕うん作業、畦崩し、畦立作業に使用できます。

リヤカバーは、はね上げ尾輪を付けて作業します。

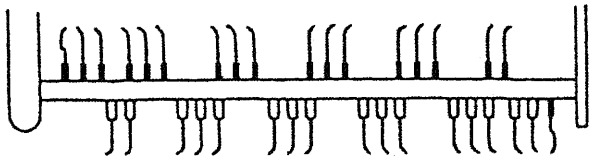
●ＡＲＨ140（標準型）



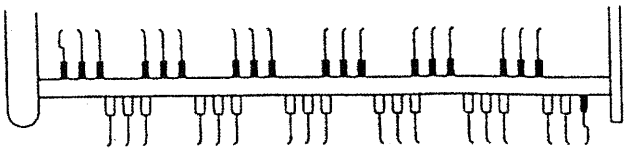
●ＡＲＨ140（Ｍ型・Ｔ型）



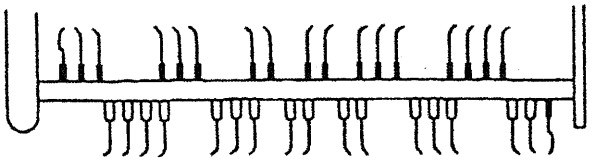
●ＡＲＨ150・160（標準型）



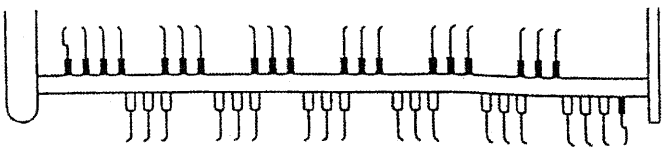
●ＡＲＨ150（Ｍ型・Ｔ型）



●ＡＲＨ140・150・160（Ｖ2型）



●ＡＲＨ160（Ｍ型）



各部の手入れと点検整備

⚠ 注意

- 作業前の準備と点検および調節をするときは、トラクタを平坦な広い場所に置き、
  （1）エンジンを止める。
  （2）油圧降下速度調節つまみを「ロック」の位置にする。（1ページ参照）
  （3）パーキングブレーキをセットする。
  （4）リヤカバーを上げロックする場合は19ページを参照のこと。

定期点検箇所一覧表

- 次の定期点検表に従って、必ず定期点検を実施してください。

NO.	点検項目		アワメータ表示時間(Hr) 50	100	150	200	250	300	参照ページ
1	チェンケース	油量点検		○	○	○	○		36
	ギヤケース	オイル交換	●					○	
2	グリースの補給 ①ユニバーサルジョイント ②耕深ハンドル 回動ハンドル } ネジ部 ③クイックジョイント・スプライン部		○	○	○	○	○	○	36
3	注油 ①クイックヒッチ・回転部 ②リヤカバーロック回転部・ピン部 ③耕深ハンドル・回動ハンドル・回転部 ④スライドヒッチ前後調節のピン部		○	○	○	○	○	○	37

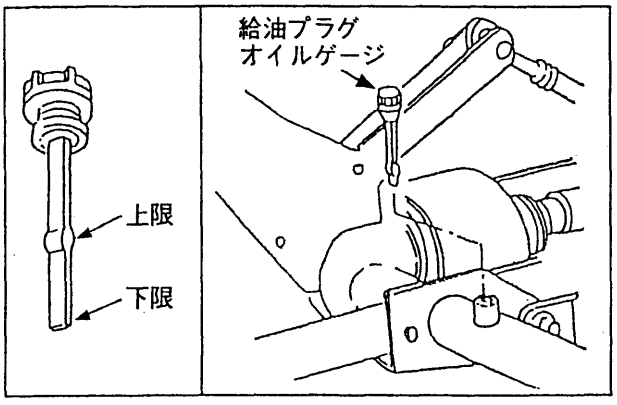
（注）●印は、ならし運転時の50時間使用後に必ず行なってください。
交換するオイルは、キセキハイポイドギヤーオイル#140を御使用ください。

各部の油量点検と交換

■ギヤケース

（1）油量点検のしかた

- ロータリを降ろして給油プラグを抜き、オイルゲージの先端をきれいにふいて、差込んでから再び抜き「下限」以上オイルがあるか調べます。
  下限以下の場合は補給しますが上限以上には入れないでください。



重要

- 点検する時は、ロータリをトラクタに装着したまま水平な地面に置いて行ってください。
  傾いていると、正確な量を示さないことがあります。
- オイルゲージはネジ込まないで測定してください。

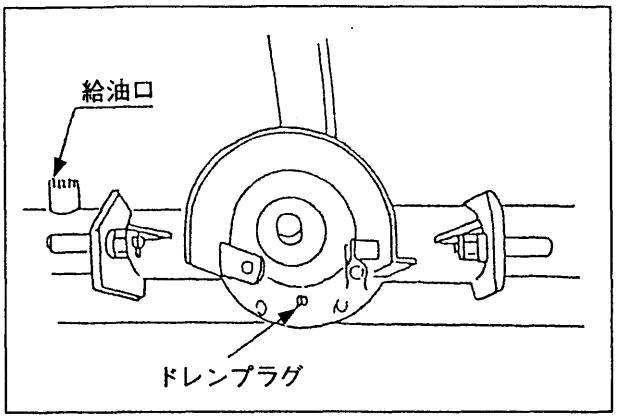
AT0100650

整理番号 40A

（2）交換のしかた

①ドレンプラグを外してオイルを出します。オイルが抜けたらドレンプラグをしっかりと締付けてください。

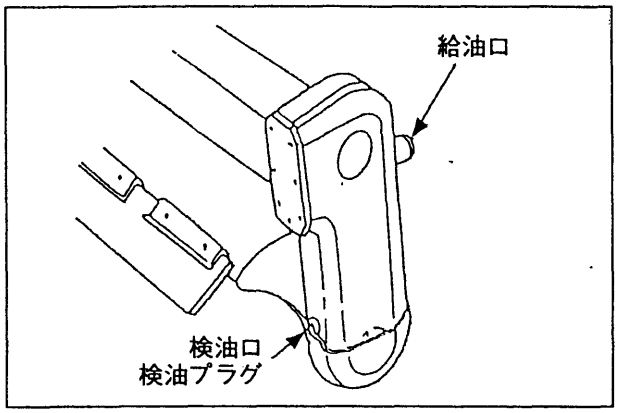
②ギヤオイルを給油口から規定量：2.2ℓ入れてください。T型式は規定量：6ℓ（チエンケース部も含む）を入れてください。



■チェンケース

（1）油量点検のしかた

●ロータリを降ろして給油プラグを外し、検油口までオイルがあるかを調べます。検油口以下の場合は補給しますが、検油口以上は入れないでください。



（2）交換のしかた

①ロータリをリフトアップします。

②検油プラグを外してオイルを出します。
オイルが抜けたらプラグをしっかりと締付けてください。

③ギヤオイルを給油口から規定量：1.2ℓ入れてください。

グリースの補給

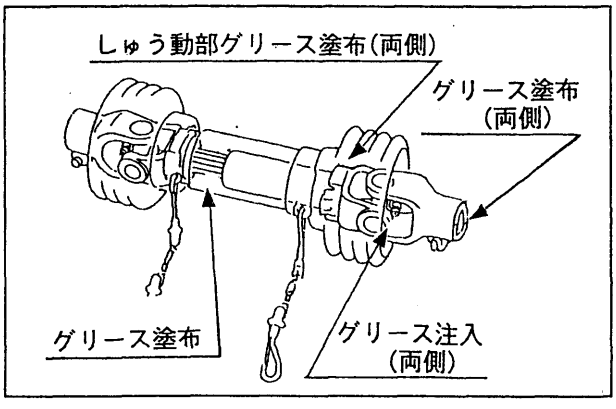
●通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし、代かき作業などの作業終了後は必ずグリースアップをしてください。

■ユニバーサルジョイント

しゅう動部はジョイントのオス･メス部を切り離して補給してください。

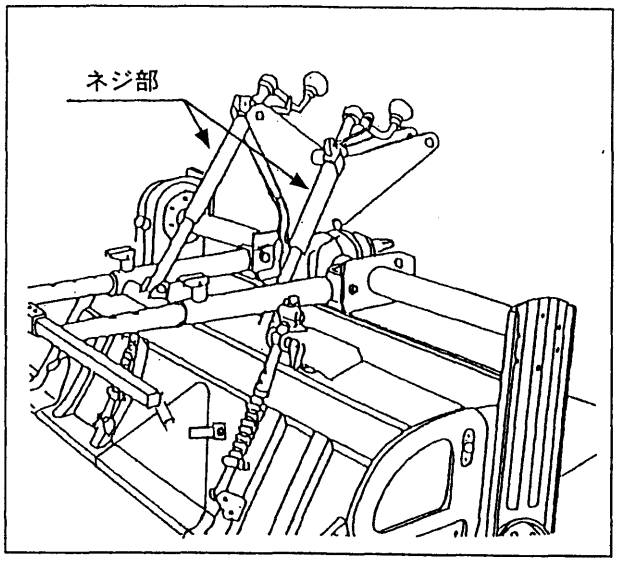
重要

●トラクタ側ＰＴＯ軸・ロータリ側入力軸にも薄く塗布してください。



■耕深ハンドル・回動ハンドル

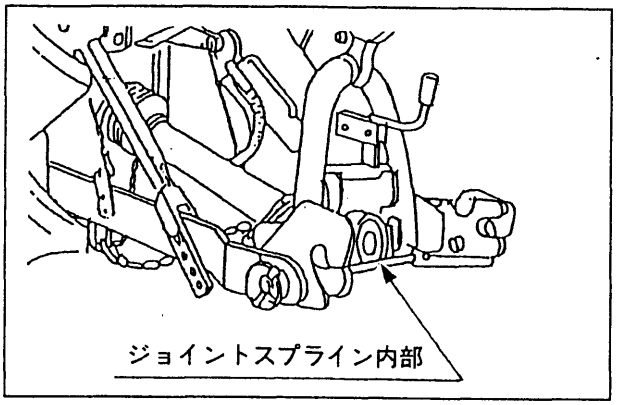
（1）各ハンドルのネジ部及び支点ピン部
樹脂カバー固定ボルトを外す。ネジ部が見えるまで樹脂カバーをずらし、薄く塗布してください。



クイックジョイント･スプライン部(D型仕様)

（1）定期的にロータリを取り外し、ジョイントスプライン内部及び、ロータリ側入力軸にグリースを塗って、錆の発生を防止してください。

（2）湿田耕うんや代かき作業後は、必ず、ロータリを取り外し、ジョイントスプライン内部の泥をきれいに水で洗い流し、ジョイントスプライン部とロータリ側入力軸にグリースを塗布してください。

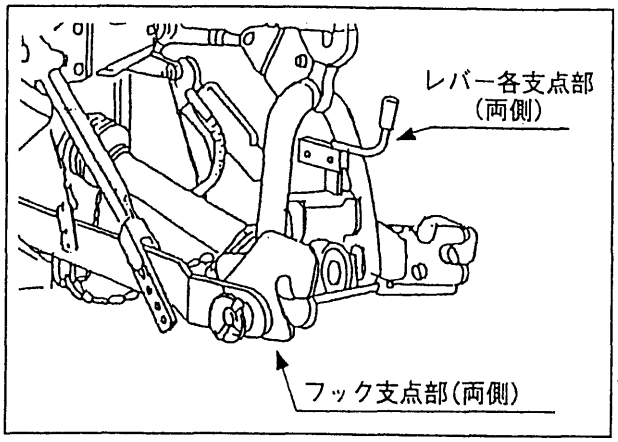


油箇所

●通常の注油は、定期点検箇所一覧表に従って行なってください。ただし、代かき作業などの作業終了後は必ず注油してください。

■クイックヒッチ回転部(D型仕様)

クイックヒッチの回転部にオイルを注油してください。

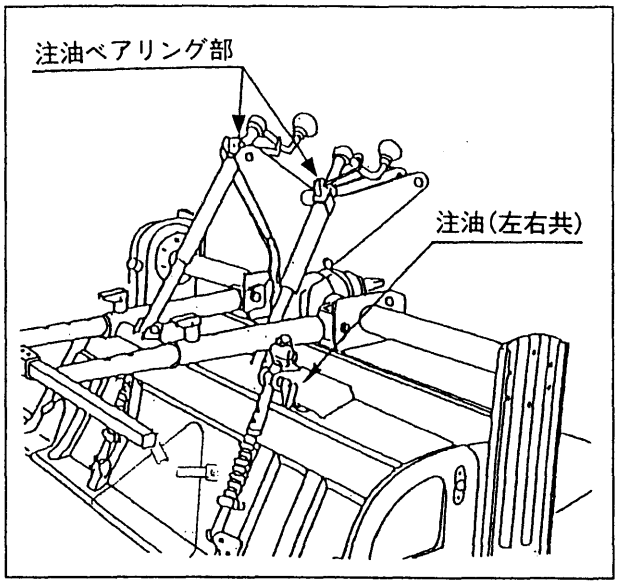


AT00650

整理番号 42A

■リヤカバーロック回転部・ピン部
■耕深ハンドル・回動ハンドル部

各回転部にオイルを注油してください。



シールの組換え

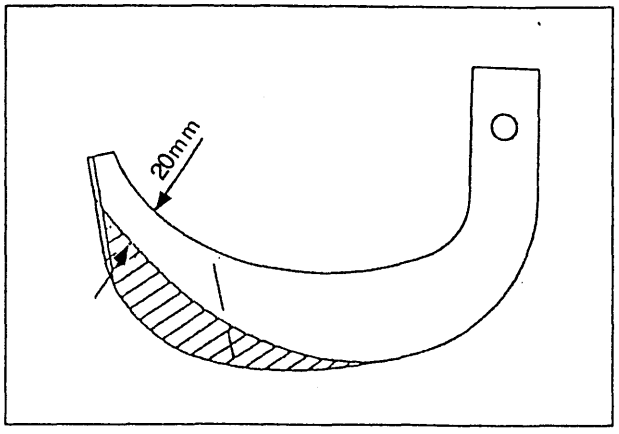
●整備などの目的でギヤケース·チェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、メクラブタ等と交換してください。液状ガスケットはスリーボンドＴＢ1208相当品を使用してください。

爪の交換時期

●耕うん爪がま耗しますと反転性·砕土性が悪くなり、十分な性能が発揮されません。（曲ったり、折れたりしてからでは遅すぎます。)効率の良い耕うん作業をしていただくために、耕うん爪は早目にお取り替えください。使用する耕うん爪は必ず回転径の正しい「ヰセキ純正品」を使用してください。

■交換時期

図のようになりましたら新しい耕うん爪と交換してください。



AT0100050

整理番号 43A

不調時の処置

分類	故障状況	原因	処置
ジョイント	ジョイント鳴きの発生	●リンクモーション不良 （折れ角差が大きい）	●トップリンク長さの調整 （6ページ参照） ●ロワリンク・リフトロッド取り付け位置の確認　（6ページ参照）
		●グリス切れ	●グリスアップ　（36ページ参照）
		●スプライン部等のま耗によるガタ	●交換
ギヤケース	給油キャップ部よりの油漏れ	●オイル量の調整不良	●点検・調整　（35ページ参照）
	ギヤ音の発生	●リンクモーション不良	●トップリンク長さの調整 （6ページ参照） ●ロワリンク・リフトロッド取り付け位置の確認　（6ページ参照）
		●噛み合い不良	●サービス工場で修理
耕うん・整地	残耕の発生	●耕うん爪のま耗 ●耕うん爪の変形	●交換　（38ページ参照） ●修理または交換
	耕うん時の異音・振動	●爪取り付けボルトのゆるみ	●増締め・調整 （31ページ参照）
		●爪配列不良	●爪配列の点検・調整 （32ページ参照）
		●特殊耕うん爪の使用	●交換（純正品の使用） （32ページ参照）
	土寄りがする 整地・均平性が悪い	●爪配列不良	●爪配列の点検・調整 （32ページ参照）
		●リヤカバーの押え力不足	●加圧スプリングの調整 （23ページ参照）
		●リヤカバーの変形	●修理または交換
		●カバー回動位置不適	●回動位置の調整 （16ページ参照）
他	クイック４Ｐの着脱がうまくゆかない	●着脱姿勢不良	●ロータリの姿勢調整 （5ページ参照）

AT 02 00650

整理番号 44A

主要諸元

※この仕様は代表機種(S)です。改良のため予告なく変更する場合があります。

機種		ARH160	ARH150	ARH140
駆動方式		サイドドライブ		
機体寸法	全長(mm)	880		
	全幅(mm)	1780	1690	1590
	全高(mm)	990		
重量(kg)		235	230	225
適応トラクタ		TH26・TH24 THS26・THS24	TH26・TH24・TH22 THS26・THS24・THS22	
装着方式		特殊3P方式		
標準耕幅(cm)		160	151	141
標準耕深(cm)		～16		
爪軸回転数(RPM)	TH26 TH24 TH22	160・254・373		
	THS26 THS24 THS22			
耕うん爪外径(cm)		46		
耕うん爪取付法		ホルダタイプ		
耕うん爪の種類と本数		C170(L)(R) 各16本 C171(L)(R) 各1本		C170(L)(R) 各15本 C171(L)(R) 各1本

AT0100650

整理番号 45A

注文部品

分類	品番	品名	仕様 特長	適応機種		
				ARH 160	ARH 150	ARH 140
耕うん	7861－301－280－	ナタバ(34)SET	標準爪　34本組	○	○	
	7862－304－220－	ナタバ(M／38)SET	ワンタッチ　38本組	○		
	7862－306－230－	ナタバ(34)SET	内盛爪　34本組	○	○	○
	7862－304－210－	ナタバ(M／36)SET	ワンタッチ　36本組		○	
	7862－307－210－	ナタバ(T／36)SET	強力爪　36本組		○	
	7860－301－250－	ナタバ(32)SET	標準爪　32本組			○
	7841－304－230－	ナタバ(M／34)SET	ワンタッチ　34本組			○
	7862－307－200－	ナタバ(T／34)SET	強力爪　34本組			○
整地	7841－451－200－	アトケシカバー(25)SET	延長整地板　250mm	○	○	○
	7841－451－300－	アトケシカバー(20)SET	延長整地板　200mm	○	○	○
	7841－451－400－	アトケシカバー(30)SET	延長整地板　300mm	○	○	○
	7861－408－290－	マッドロップ(16V)SET	V型用	○		
	7861－408－270－	マッドロツプ(15V)SET	V型用		○	
	7861－408－250－	マッドロップ(14V)SET	V型用			○
	7852－701－500－	レベラ(15)SET	ツース・アトケシカバー付	○		
	7861－701－500－	レベラ(14)SET	ツース・アトケシカバー付		○	
	7861－701－400－	レベラ(13)SET	ツース・アトケシカバー付			○
	7862－505－200－	ホイル(ゲージ)SET	L・R　SET	○	○	○

整理番号　46B

AT05 11530

純正部品を使いましょう。

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう。

純正アタッチメントは、一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産･出荷していますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

人と大地のハーモニー ISEKI

井関農機株式会社

ISEKI & CO., LTD.

営業本部 〒116-8541 東京都荒川区西日暮里5丁目3番14号 ☎03-5604-7618
(FSビル)
北海道支店 〒068-0005 岩見沢市5条東12丁目5番地 ☎0126-22-2666
東北支店 〒989-2421 宮城県岩沼市下野郷字新南長沼1-2 ☎0223-24-1111
関東センター 〒300-2346 茨城県筑波郡伊奈町青木560 ☎0297-58-5131
関西センター 〒523-0016 滋賀県近江八幡市千僧供町字大橋602 ☎0748-37-3831
中国支店 〒739-0024 広島県東広島市西条町御薗字727-2 ☎0824-23-9883
四国支店 〒799-3101 愛媛県伊予市八倉120-1 ☎089-983-5677
九州支店 〒861-2297 熊本県上益城郡益城町大字安永1400 ☎096-286-4020
部品部 〒799-2692 愛媛県松山市馬木町700 ☎089-979-4114

7862-910-001-3D

AT05 11530

整理番号	48C(完)